

令和2年7月豪雨復旧・復興本部会議（第9回）

日 時：令和4年3月24日（木）10:00～

場 所：審議会室

次 第

- 1 開 会
- 2 本 部 長（知 事） 挨 拶
- 3 議 事

令和2年7月豪雨からの復旧・復興の進捗状況

資料1

資料2

- 4 そ の 他
- 5 閉 会

令和2年7月豪雨からの 復旧・復興の進捗状況

～“緑の流域治水”と復旧・復興に向けた重点10項目を中心に～

令和4年(2022年)3月24日

熊 本 県

緑の流域治水

生命・財産を守る安全・安心の最大化と
環境への影響の最小化のベストミックス

流水型ダムについて(位置・諸元)

○川辺川の流水型ダムについては、治水計画上の必要な洪水調節機能を確保するとともに、これまでの付替道路等の各種の生活再建の状況、ダム本体関連工事である転流工の完成などの現地の状況を踏まえ、**ダムの位置・高さ・湛水範囲は従来の貯留型ダムと同じとし、ダム型式は重力式コンクリートダムに変更**して以下の諸元となる。

○流水型ダムとして整備

○ダムの位置:

・従来の貯留型ダムと同じ

〔 左岸:相良村大字四浦字藤田
右岸:相良村大字四浦字堂迫 〕

○ダムの諸元:

・重力式コンクリートダム

(従来はアーチ式コンクリートダム)

・ダム高 107.5m (従来と同様)

・堤頂長 約300m

・湛水面積 3.91km²(従来と同様)

・総貯水容量 約13,000万m³

注)ダムの諸元については検討の進捗により変わる可能性があります。

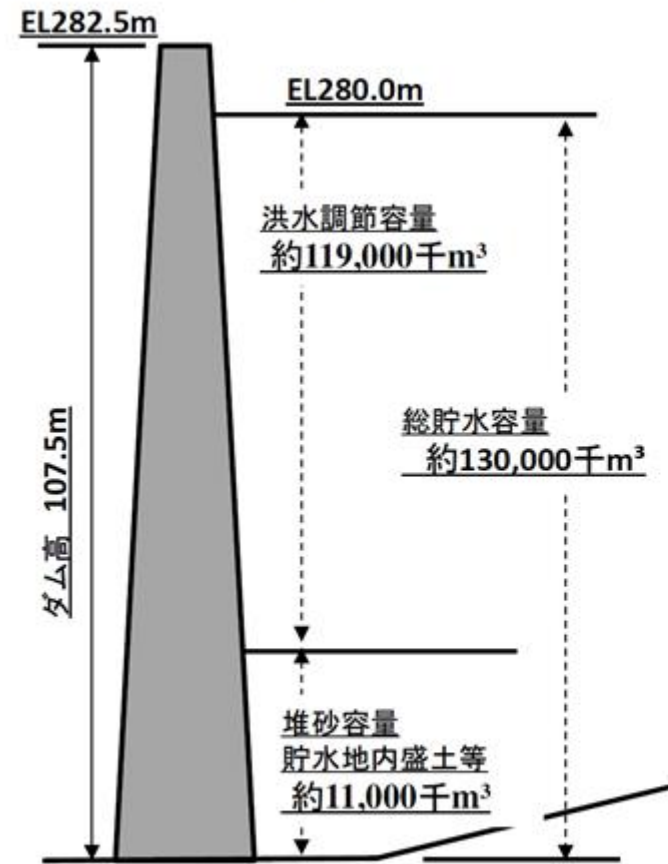


図 流水型ダムの貯水地平面図

流水型ダムについて(総貯水容量)

○川辺川の流水型ダムの総貯水容量については、治水計画に必要となる洪水調節容量の約1億1900万m³に、現時点で必要と見込まれる計画堆砂量・貯水地内盛土等の約1100万m³を加えた約1億3000万m³となる。

ダム概要図



$$\begin{array}{r} \text{必要洪水調節容量} \\ \text{約119,000千m}^3 \end{array} + \begin{array}{r} \text{計画堆砂量・} \\ \text{貯水地内盛土等} \\ \text{約11,000千m}^3 \end{array} = \begin{array}{r} \text{総貯水容量} \\ \text{約130,000千m}^3 \end{array}$$

「計画堆砂量・貯水地内盛土等」として現時点で必要と見込まれる量

- 計画堆砂量 約1,000千m³
- 貯水地内盛土等 (生活再建対策盛土、斜面安定対策盛土) 約10,000千m³

注)上記諸元については検討の進捗により変わる可能性があります。

流水型ダムについて(放流設備等の構造)

○川辺川の流水型ダムの放流設備等の構造については、以下のような基本的な考え方で検討を進めている。

■ダム構造の検討の基本的な考え方

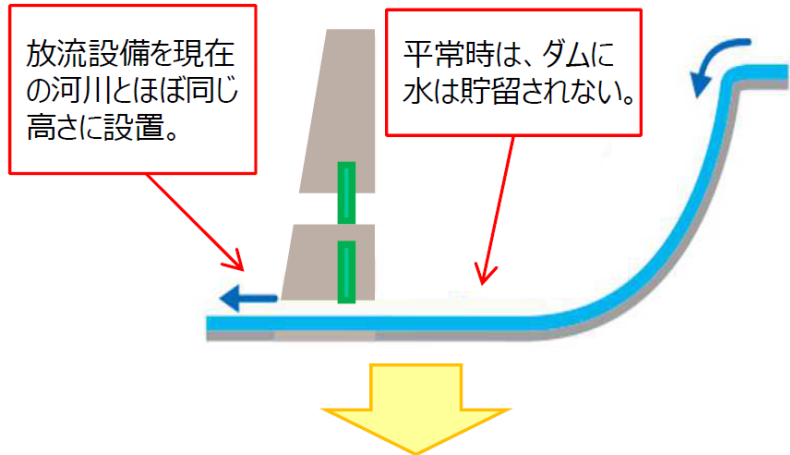
- 平常時の河川の連続性を可能な限り確保するため、現在の河川とほぼ同じ高さに「河床部放流設備」を設置
- 「河床部放流設備」の上部に、洪水調節用の「常用洪水吐き」を設置
- 効率的な運用を実施するため、「常用洪水吐き」及び「河床部放流設備」にはゲート設置

注)ダム構造(放流設備等)の基本的な考え方については検討の進捗により変わる可能性があります。

流水型ダムの特徴

平常時

平常時は、ダムより上流から流入する水は、そのまま下流に流れる。



洪水時

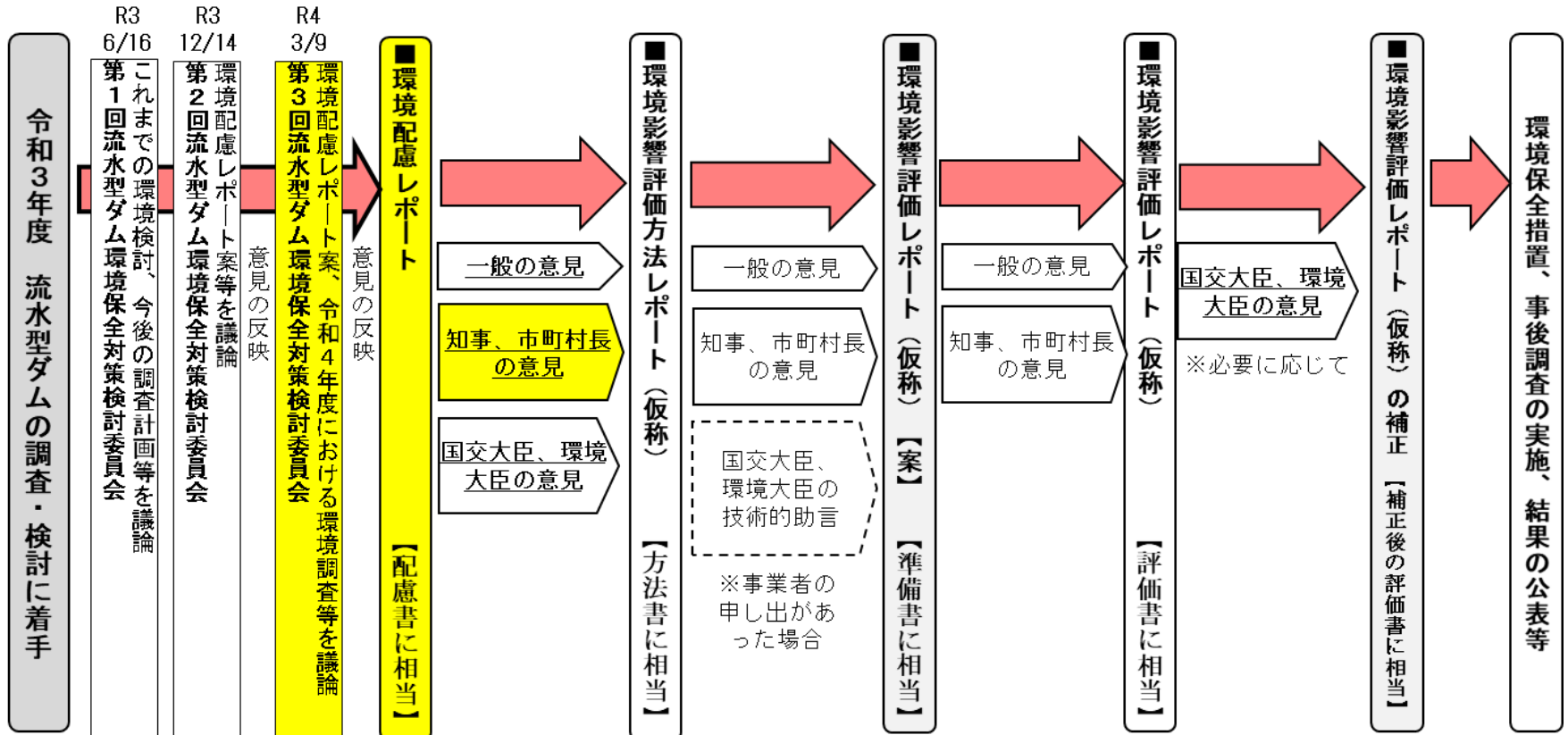
洪水時には、ダムに水を貯め、下流へ流れる量を減少させる。



環境影響評価(環境アセスメント)

- これまで実施してきたダム関連の工事等による現地の状況も考慮しつつ、環境影響評価法に基づくものと同等の環境影響評価を実施
- 3月9日の第3回流水型ダム環境保全対策検討委員会において、**環境配慮レポート※(案)を了承**
- 今後は、九州地方整備局において、「川辺川の流水型ダムに関する環境配慮レポート」として公表され、国交大臣及び環境大臣、関係行政機関の長（知事、市町村長）、一般から意見を聴取
- 県では、「流水型ダムに係る環境影響評価審査会」を設置し、国と同様に丁寧な調査審議を実施**
県としても、関係市町村長に意見聴取の上、知事意見を提出予定

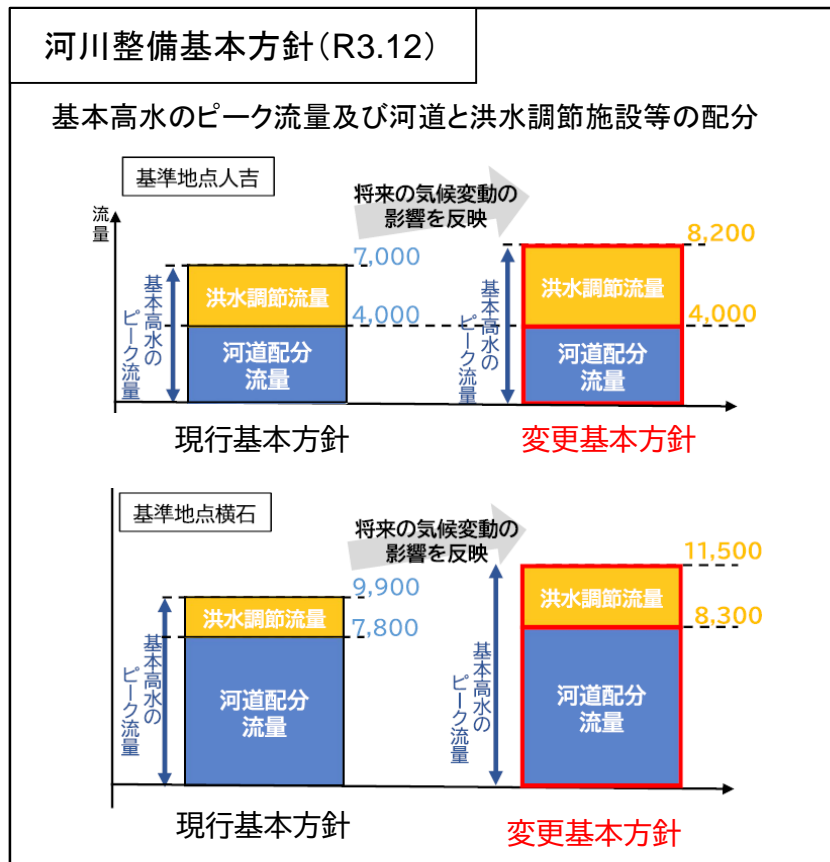
※環境影響評価法の計画段階配慮書に相当。事業の早期段階での環境配慮を可能とするため、位置・規模等の検討段階において、環境保全のために配慮すべき事項について検討した結果をまとめた図書



球磨川水系河川整備計画の策定について

○球磨川水系河川整備基本方針については、「気候変動」と「流域治水」の新たな視点を踏まえた見直しが行われ、令和3年12月に“緑の流域治水”の考えが盛り込まれた新たな基本方針に変更された。

○現在、国と県が連携し、**「緑の流域治水」による、球磨川流域における「命と環境の両立」「令和2年7月豪雨からの復旧と創造的復興」「持続可能な発展」の実現**を理念とした「河川整備計画」を策定中。



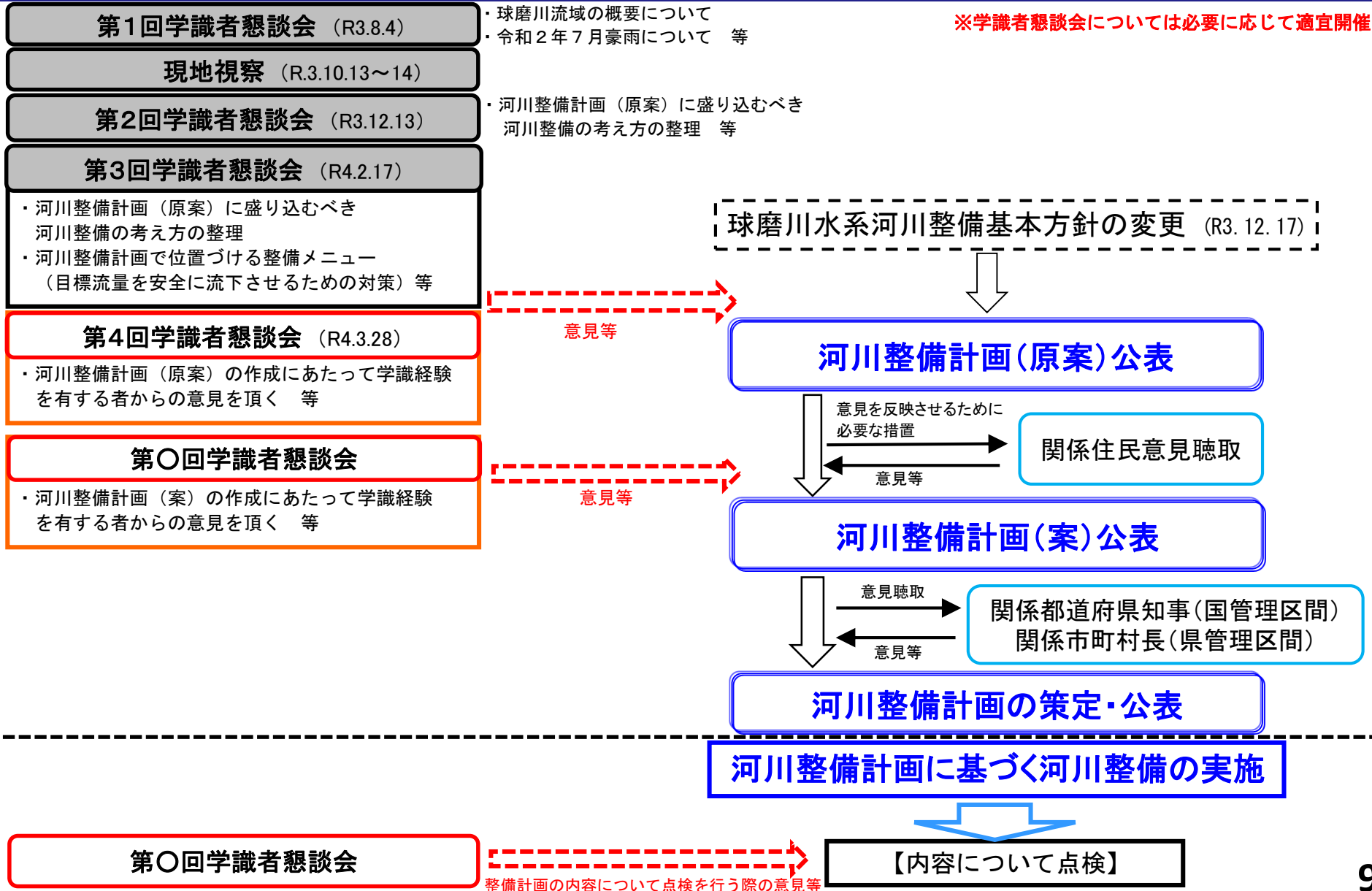
出典：河川整備基本方針検討小委員会



出典：球磨川水系学識者懇談会

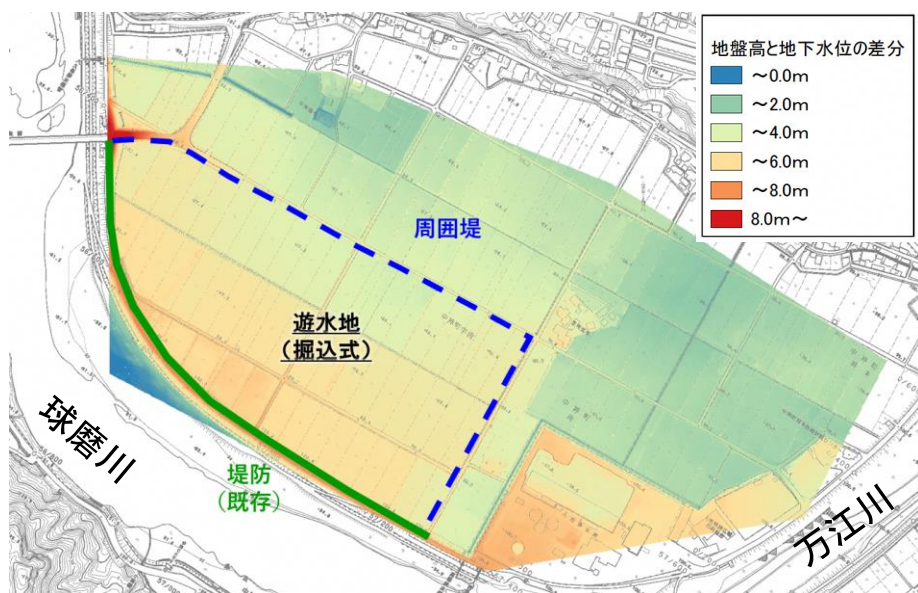
球磨川水系河川整備計画の策定について

河川整備計画策定に向けたスケジュール



輪中堤・宅地かさ上げ・引堤・遊水地について

- 国・県・関係市町村が連携のうえ、各地区で事業説明会等を令和3年2月から順次開催
 - 輪中堤・宅地かさ上げ 35回(八代市、芦北町、球磨村)
 - 引堤、遊水地 24回(人吉市、錦町、相良村、球磨村) ※令和4年2月末現在
- 事業説明及び現地立ち入りの説明後、令和3年4月から現地調査(測量等)を行い、現在、測量、地質調査、用地調査等を実施中。
- 引き続き、国・県・関係市町村が連携し、住民お一人お一人にしっかりと寄り添いながら、住民の皆様と丁寧に合意形成を進めていく。



遊水地範囲イメージ(案)(人吉市中神地区)



用地調査の状況(芦北町白石地区)

堆積土砂の撤去など河川の緊急対策(国管理区間)

○令和3年5月末までに約70万m³の掘削が完了。

その後、令和4年2月末までに約69万m³の掘削を実施しており、引き続き、必要な河道掘削を実施していく。

○令和4年2月末実施中箇所



③坂本町下代瀬地区付近



②人吉市老神地区付近(中川原公園)



⑨球磨村和田地区付近



⑫相良村柳瀬地区付近



堆積土砂の撤去など河川の緊急対策(県管理区間)

＜令和3年度までの取組みと成果＞

◆ 堆積土砂撤去・河道掘削

- ・令和2年7月豪雨による堆積土砂は、令和3年5月末までに約93万 m^3 の撤去完了
- ・引き続き、次期出水に備え、土砂掘削を開始

◆ 災害復旧(県管理河川施設の復旧)

- ・令和4年2月末までに約5割(191/394箇所)の工事着手

◆ 河川情報の充実

- ・水位計7基、河川カメラ6基を増設
- ・夜間対応のための河川カメラへの照明設備追加
(既設河川カメラも含め計11基に設置)



災害復旧工事完了(鳩胸川・人吉市)



河川カメラ夜間対応状況(万江川・人吉市)

＜令和4年度の取組み＞

◆ 堆積土砂撤去・河道掘削

- ・令和4年5月末までの完了を目標に、河道内の土砂約23万 m^3 の掘削を実施

◆ 災害復旧(県管理河川施設の復旧)

- ・未着手箇所の早期発注、工事推進

◆ 河川情報の充実

- ・関係機関や地域住民への周知
- ・河川カメラの配置計画の見直し、増設の検討



河道掘削状況(川辺川・相良村)

治山・砂防による山の再生・強化(砂防)

<令和3年度までの取組みと成果>

- ◆堆積土砂・流木撤去(全17箇所)
 - ・ 17箇所で撤去完了
- ◆砂防施設の復旧
 - ・令和4年2月末までに約3割(64/237箇所)の工事着手
- ◆緊急的な砂防施設の整備(全17箇所)
 - ・ 2箇所で完了
 - ・ 14箇所で工事を実施中
- ◆その他の砂防施設(全23箇所)
 - ・ 4箇所で工事を実施中



緊急的な砂防施設(急傾斜)整備完了(塩尾・芦北町)

<令和4年度の取組み>

- ◆堆積土砂・流木撤去
 - ・ 維持管理上、必要な土砂撤去の継続的な実施
- ◆砂防施設の復旧
 - ・ 未着手箇所の早期発注、工事推進
- ◆緊急的な砂防施設の整備(全17箇所)
 - ・ 残15箇所の工事推進
- ◆その他の砂防施設(全23箇所)
 - ・ 4箇所の工事完了、残19箇所の工事着手



応急対策状況

砂防堰堤
計画位置

緊急的な砂防施設整備計画図(川内川・球磨村)

治山・砂防による山の再生・強化(治山)

＜令和3年度までの取組みと成果＞

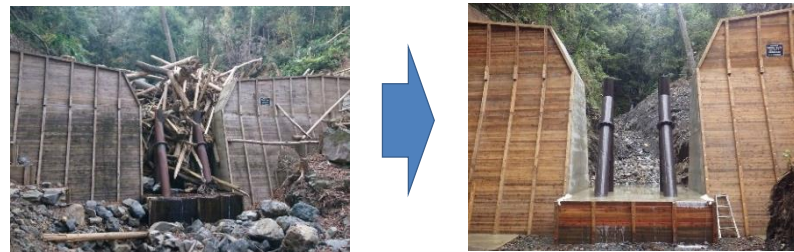
治山施設の復旧・整備を着実に推進

- ・土砂・流木の撤去を9箇所完了し、5箇所実施中。
- ・被災した治山施設の復旧は1箇所完了し、3箇所実施中。
- ・緊急的な治山施設の整備は7箇所完了し、38箇所実施中。
- ・その他の治山施設の整備は3箇所実施中。

緊急的な治山施設の整備(相良村)



治山ダムに堆積した流木等の撤去(球磨村)



＜令和4年度取組み＞

治山事業による着実な復旧を継続

- ・被災地域の早期復旧に向けて、緊急的な治山施設の整備や被災した治山施設の復旧等に引き続き全力で取り組む。

新たなソフト対策による防災力の向上

- ・災害が激甚化、頻発化する中、事前防災としてのソフト対策を充実・強化し、防災力の向上を図る。

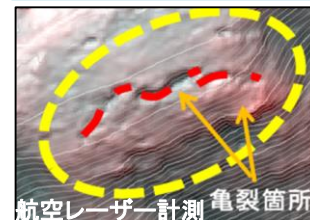
森林パトロールの強化



パトロール状況

点検箇所を大幅に増やし、監視体制を強化。

災害危険個所の地形解析



航空レーザー計測 亀裂箇所

航空レーザー計測の地形解析による危険個所の把握・調査。

災害危険個所の普及啓発



標識例

山地災害危険地区への標識設置や、防災教育の実施。

危険情報を早期に把握し、効果的な事業計画や情報周知による自主避難等を促し防災力を向上

治山・砂防による山の再生・強化(治山)

～農業、森林・林業関係者が連携した土砂流出対策「熊本モデル」を推進～

- 豪雨による影響で水路が越水し宅地等に浸水被害が発生した幸野溝地区等の上流域において、農業、森林・林業関係者が連携し、緑の流域治水に資する土砂流出抑止対策「熊本モデル」を整理し公表。
- 治山分野では、令和4年度より5カ年計画で新たに「流域保全総合治山事業」に取り組み、国有林と連携しながら上流から下流まで一体となった治山対策を実施。

治山施設整備による山地防災機能強化

(1)階段状治山ダム



溪床勾配の緩和による
溪岸侵食防止効果

(2)リット式治山ダム



土石流時に発生する
流木等の捕捉効果

(3)治山ダム機能強化



嵩上げによる土砂流出抑
止効果

(4)森林整備



筋工等による土砂
流出抑止効果

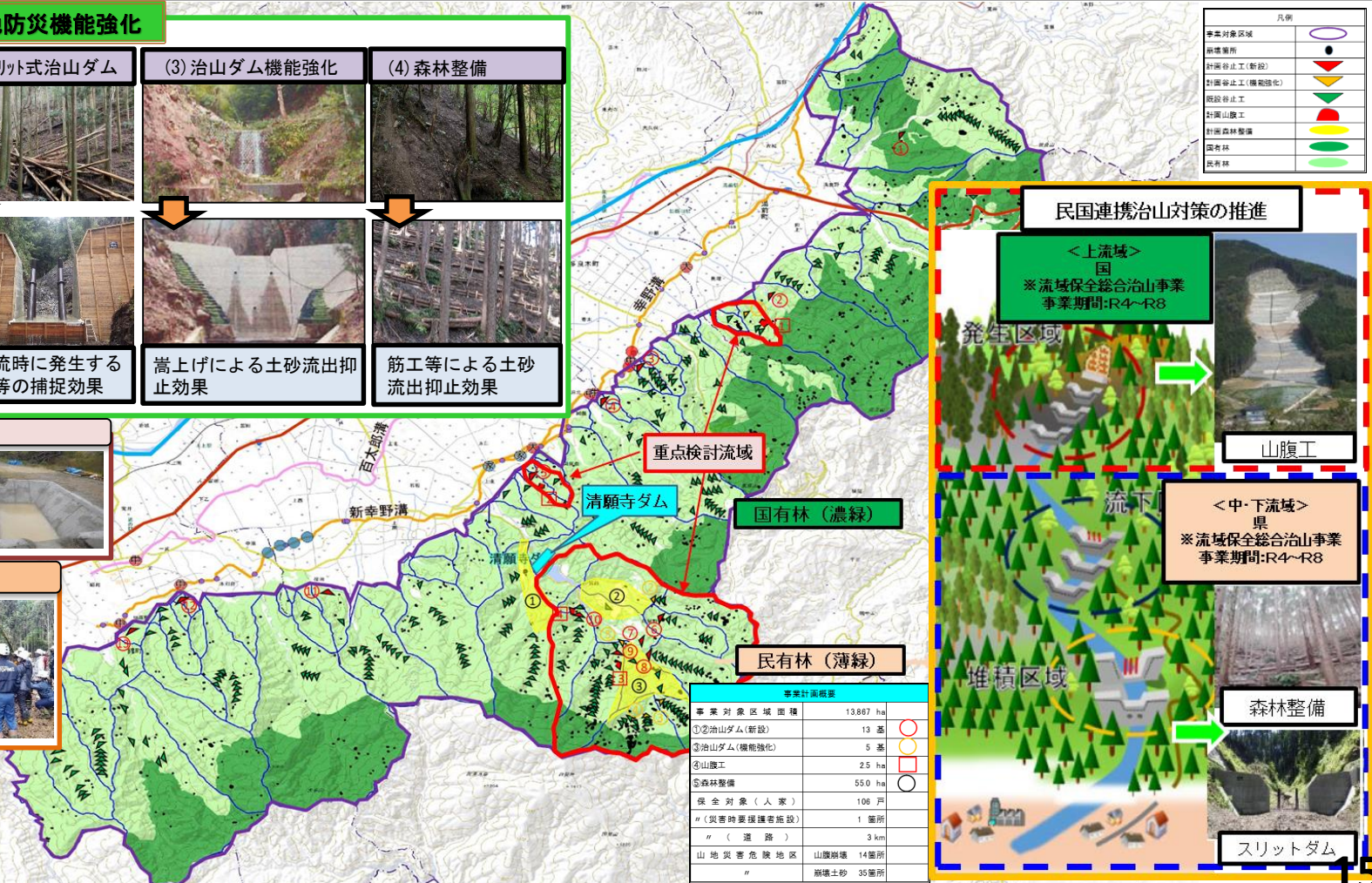
農業分野での対策

効率的な堆積土砂の撤去など、維持管理を見据えた農業用水施設への土砂流入防止施設等の設置

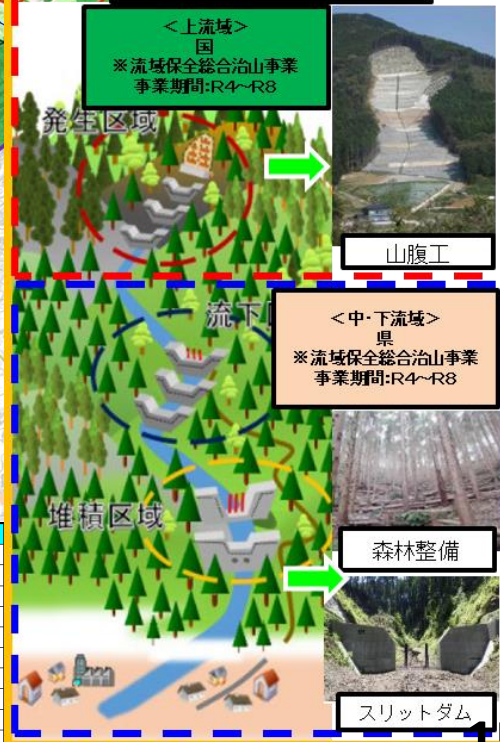


林業分野での対策

「林地保全に配慮した林業のガイドライン」(検討委員会策定)に沿った森林施業や道づくりの推進



民有連携治山対策の推進



“いのち”を守る防災・減災力の強化①

田んぼダムの普及・拡大の取組み

<令和3年度までの取組みと成果>

実証面積の目標達成

- ・流域7市町村において、関係者と連携し、目標を上回る296haの水田で実証実験を実施。
- ・「田んぼダム効果等検証委員会」において一定の効果を確認。次年度の展開に向け、課題を整理。
《課題》・経年により畦畔の高さが低くなり貯留効果が低減
・排水柵の老朽化や多様な構造により、せき板設置率が想定より低い

<令和4年度の取組み>

課題解決の取組みを着実に推進

- ・課題解決に向け、貯留効果を高める畦畔整備や、農業者が取り組みやすい機能分離型田んぼダム(排水柵)の開発検討等、引き続き効果検証を着実に進める。
- ・広報パンフレット「田んぼダムだより」や新聞広告等で田んぼダムの有効性を県民へ広く周知し、機運醸成を図る。

貯留効果を高める畦畔整備

高さが低くなった畦畔

貯留効果 **小**



痩せた畦畔 約15cm 約10cm



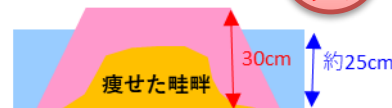
畦畔補強(畦塗り)

貯留効果 **大**

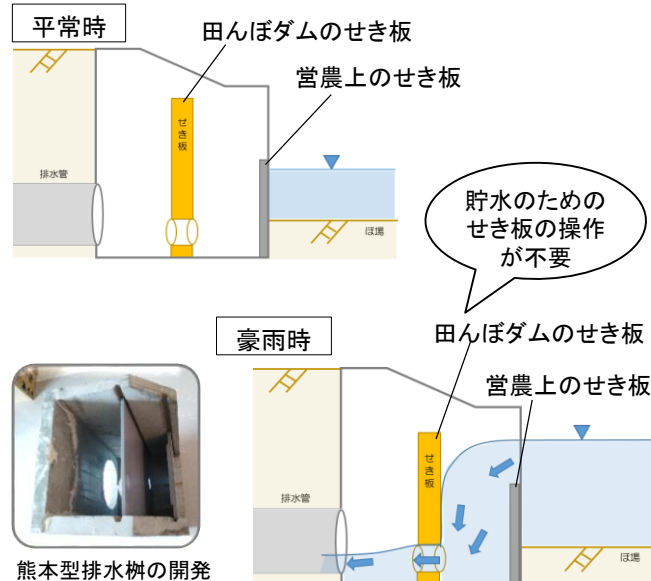


畦畔築造(工事)

貯留効果 **大**



機能分離型田んぼダム(排水柵)の開発検討



「田んぼダムだより」



“いのち”を守る防災・減災力の強化②

＜令和3年度の成果と令和4年度 of 取組み＞

戸別受信機等の設置

- ・出水期までに全世帯設置完了予定（～R4.5）。
※八代市は一斉に情報配信するシステムを運用



戸別受信機



防災ラジオ（戸別受信機）

想定最大規模(L2)に対応したハザードマップの作成（国管理及び県管理水位周知河川）

- ・出水期までに冊子配布及びWEBによる周知完了予定（～R4.5）。
※その他河川のL2対応ハザードマップへ随時更新

マイタイムラインの普及

- ・マイタイムラインシートを手軽に作成できる専用WEBサイトを開設（R3.9）。
- ・専用WEBサイトでの公開や市町村における出前講座、学校での防災授業で活用する作成支援動画を制作（R4年度）。
- ・学校等と連携し、子どもから家庭への浸透を図るために、マイタイムラインを活用した防災授業を支援（R3年度（球磨工業高、球磨中）、R4年度～）。



マイタイムライン専用WEBサイト

避難行動要支援者個別避難計画

- ・モデル地区ワークショップの実施などにより、個別避難計画の実効性の更なる向上を推進（R4年度）。

住民参加型避難訓練の実施

- ・「マイタイムライン」を活用した住民参加型訓練を実施（R3年度～）。
- ・県と市町村が連携した個別避難計画に基づく訓練を実施（R3年度～）。



避難訓練（人吉市）

“いのち”を守る防災・減災力の強化③

＜令和3年度の成果と令和4年度の取組み＞

リアルハザードマップの設置

- リアルハザードマップ(モデル版)を13市町村に配布。
国設置分と合わせて**65箇所設置済み**(~R4.3)。
- リアルハザードマップの追加設置(八代市、球磨村、山江村(R4年度))



リアルハザードマップ(芦北町)

水災補償を付帯した火災保険の加入促進

- 水災補償を付帯した火災保険の**保険料の助成を開始**(球磨村(R3.5))
- 八代市、芦北町等においてR4年度から助成制度を開始予定。



球磨村ホームページ

危機感共有と命を守る災害報道連携会議

- 国・県・県南15市町村・報道機関が連携し、迅速な情報共有を構築し**住民への早期避難の呼びかけを実施**(R3.5~)。
- 第2回危機感共有と命を守る災害報道連携会議を開催予定(3/28)。



知事臨時会見での早期避難の呼びかけ

その他ソフト対策の取組み

- テレビ、ラジオ、県からのたより、SNS等を活用した広報に加え、令和3年度から新たに県公式YouTubeチャンネルを開設。
- ロアツソ熊本の公式ツイッターでの防災啓発情報の提供。



県公式YouTubeチャンネル



ロアツソ熊本公式ツイッター

すまい・コミュニティ
の創造

本格的な住まいの再建(仮設住宅、住まいの再建支援策)

- 仮設住宅の入居者は令和4年2月末で1,360世帯(3,061人)、令和3年1月末をピークに減少。
- 令和6年3月には、すべての被災者の住まいの再建の目処がつくよう、市町村や地域支え合いセンター等と連携し、被災者一人一人の意向に寄り添った支援を進める。

<令和3年度までの取組みと成果>

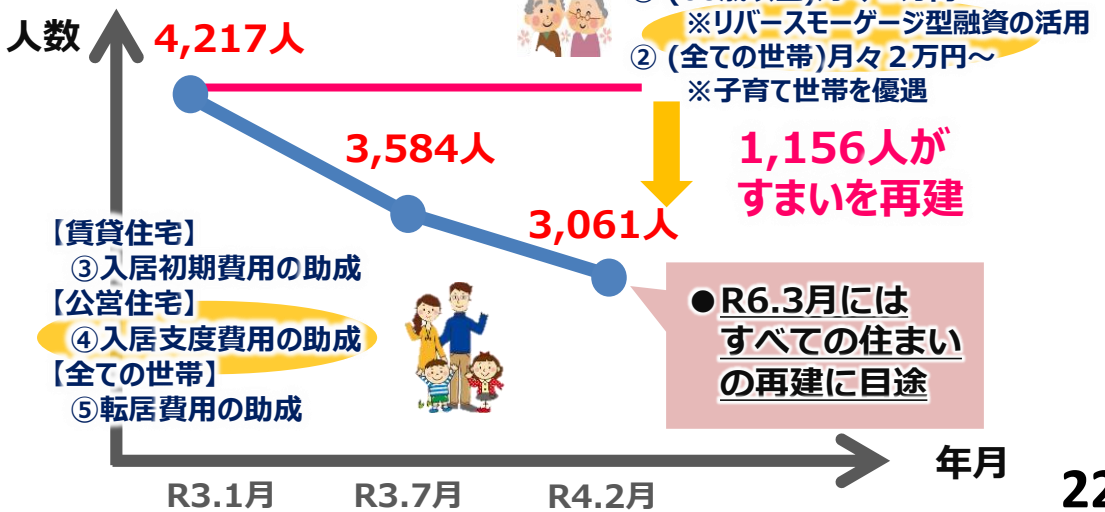
- ・恒久的な住まいの再建意向、日常生活での課題等について、意向調査を実施。
- ・意向調査結果を踏まえ、市町村及び地域支え合いセンターと、各被災世帯の状況について、情報共有する定期報告会を開始し、住まいの再建の加速化。
- ・昨年12月、国から災害救助法に基づく応急仮設住宅の供与期間に関する同意があり、最長1年間延長。

<令和4年度の取組み>

- 5つの支援策を活用し、被災者一人一人の意向に寄り添ったきめ細かな住まいの再建支援を進める。
 - ・公共工事の影響を受けない自宅再建世帯の再建目処をつける
 - ・民間賃貸住宅を再建先とする全世帯の再建完了
 - ・公共工事の影響を受ける自宅再建希望世帯、並びに災害公営住宅入居希望世帯の状況把握

「熊本県独自の5つの支援策」

仮設住宅入居者数



住まいの再建の支援策受付件数(R4.2月末)

①リバースモーゲージ 利子助成	②自宅再建 利子助成	③民間賃貸 住宅入居 助成	④転居費用 助成	⑤公営住宅 入居助成
4件	46件	87件	659件	26件

本格的な住まいの再建(知事の仮設団地訪問)

- 知事が仮設団地を訪問し、緑の流域治水や住まいの再建に向けた支援策などを説明するとともに、住まいの再建に向けた課題等について意見交換を実施。
- 意見交換の後、仮設住宅の軒先やみんなの家などでも、多くの方々とお話しし、様々な御意見を聴取。(約200人以上の方々と懇談)
- 今後も、様々な機会を捉え被災地を訪問し、住民の声をお聴きしていく予定。

訪問日	市町村	訪問先(仮設団地)
7月25日(日)	芦北町 津奈木町	女島ゆめもやい緑地仮設団地 男島仮設団地
8月1日(日)	球磨村	さくらドーム・多目的広場・グラウンド仮設団地
9月12日(日)	八代市	古閑中町・市民球場仮設団地
9月23日(木)	山江村 相良村	中央グラウンド仮設団地 松葉・総合運動公園仮設団地
10月3日(日)	人吉市	下原田第一・第二・第三仮設団地 西間上第一・第二・第三仮設団地



本格的な住まいの再建(木造仮設住宅の利活用)

<木造仮設住宅の利活用 住まいの再建「くまもとモデル」>

- 仮設住宅入居者が供与期間を心配せず、再建されるまで安心して生活できる環境を整備
- SDGsやカーボンニュートラルの理念に沿った新しい復興の在り方
- 全国的に、いつどこで発生するか分からない災害において、先進的なモデルとして実施

<令和3年度までの取組みと成果>

住まいの再建「くまもとモデル」として、

- ・ 木造仮設住宅を解体せず、市町村へ譲与
- ・ 公共工事等で再建まで時間を要する被災者が安心して生活できる環境の整備を検討
- ・ 令和4年8月、松葉仮設住宅(相良村)の利活用が開始!(令和2年7月豪雨で初)

「このまま仮設住宅に住み続けたい。」
「再建まで時間がかかるけど、仮設住宅にはいつまで居ることができる?」



仮設団地訪問(R3.7月~10月)

<令和4年度取組み>

- ・ 相良村の取組みをモデルケースとして、他の被災市町村にも広がるよう支援
(八代市、人吉市、芦北町、津奈木町、山江村、球磨村)

新 木造仮設住宅利活用等支援事業

木造応急仮設住宅、みんなの家(集会所及び談話室)を、被災者の住まいの再建及び創造的復興に資する施設として利活用する際に必要な工事費等の経費を支援

松葉仮設団地(相良村)



本格的な住まいの再建(災害公営住宅)

<令和3年度までの取組みと成果>

◆災害公営住宅の整備

- ・5市町村9地区221戸で設計中・事業者選定中
- ・3市町村3地区約77戸で建設場所検討中

【設計中・事業者選定中】

市町村	地区	戸数	入居時期
八代市	藤本・大門	5戸	令和5年9月
	合志野	4戸	令和5年4月
	中津道	1戸	令和5年7月
人吉市	相良町	120戸	令和6年1月
芦北町	佐敷	9戸	令和5年7月
	湯浦	12戸	令和5年7月
相良村	西原	2戸	令和5年1月
球磨村	渡	60戸	令和5年7月
	一勝地	8戸	令和5年5月
5市町村	9地区	221戸	

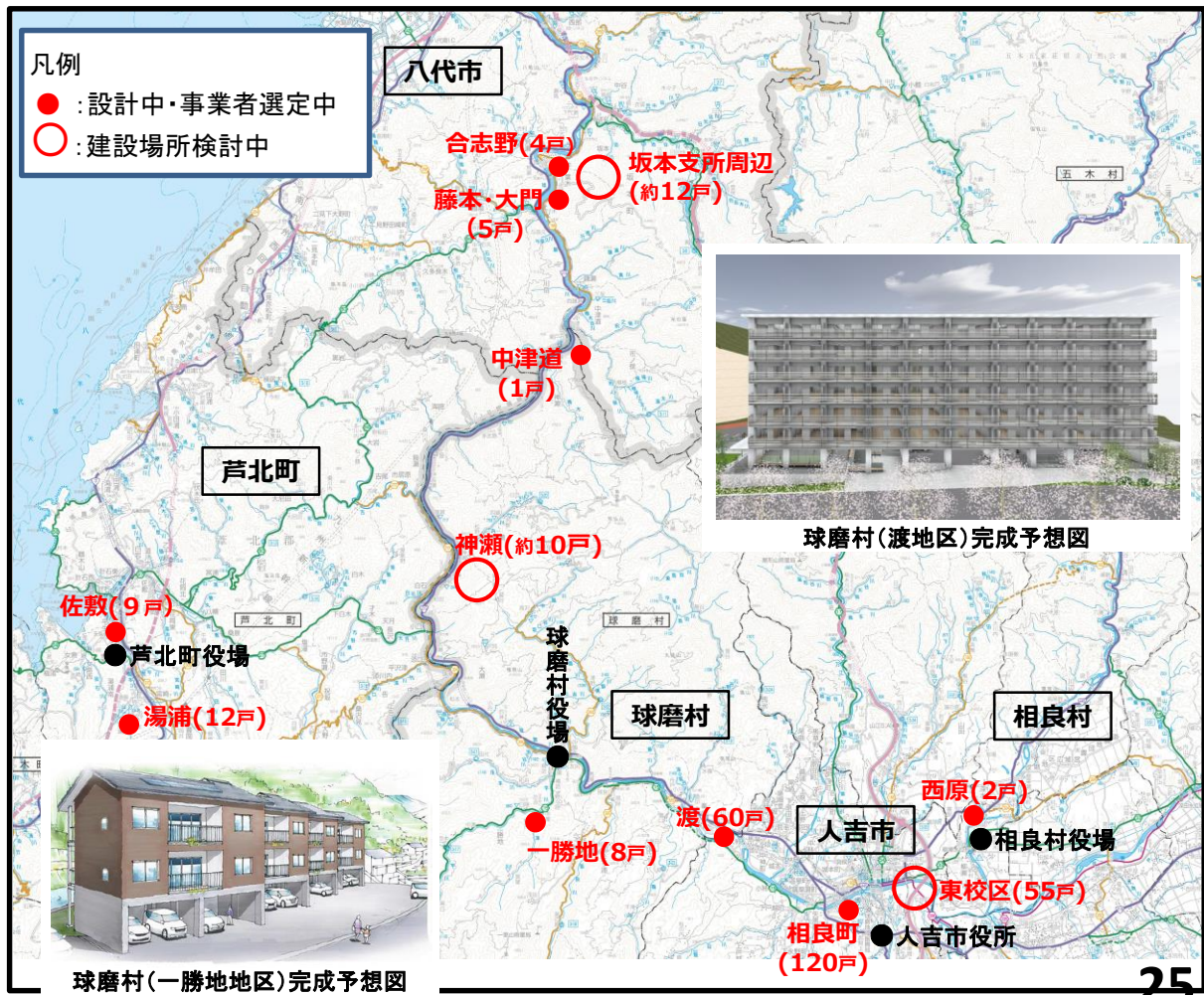
【建設場所を検討中】

市町村	地区	戸数	入居時期
八代市	坂本支所	約12戸	令和7年度中
人吉市	東校区	55戸	令和6年1月
球磨村	神瀬地区	約10戸	令和6年7月
3市町村	3地区	約77戸	

<令和4年度の取組み>

◆災害公営住宅の整備

- ・市町村支援(設計工事内容の協議・提案、補助金申請指導等)を引き続き実施
- ・災害公営住宅の完成・入居開始予定(相良村)



災害廃棄物の処理

◆目標とする令和3年12月末(発災後1年半)までの処理完了を概ね達成。

○ **公費解体**の進捗(R4. 2月末) [解体完了 : 20市町村/23市町村]

申請件数 : 2,426件 完了件数 : 2,420件 (**完了率 : 99.8%**)

○ 仮置場 3月末までに災害廃棄物の搬出、原形復旧が完了の見込み。

○ 損壊家屋等の解体・撤去

(球磨村茶屋地区)



(人吉市下青井町)



《公費解体の進捗状況の推移》

	申請件数 【A】	完了件数 【B】	完了率 【C/A】
R3.6月末	2,442	1,201	49.2%
12月末	2,425	2,417	99.7%
R4.2月末	2,426	2,420	99.8%

【災害廃棄物(片付けごみ、解体ごみ)の処理状況】(R4.1月末)

発生推計量 : 340.9千トン

処理量 : 294.2千トン

処理進捗率 : 86.3%

リサイクル率 : 82.6% [目標:70%以上]

※上記は土砂を除く数量。

被災地のまちづくりと集落再生

被災市町村の復興計画・復興まちづくり計画の策定

- 特に被害が大きかった6市町村(八代市・人吉市・芦北町・相良村・山江村・球磨村)が、「復興計画」を策定(令和2年度)。
- 八代市・人吉市・相良村・球磨村では、これまで住民懇談会を重ね、地域の将来像や実現方策等を具体化した「復興まちづくり計画」を策定(令和3年度)

<復興まちづくり計画策定に向けた地区別住民懇談会の様子>



八代市



人吉市



相良村



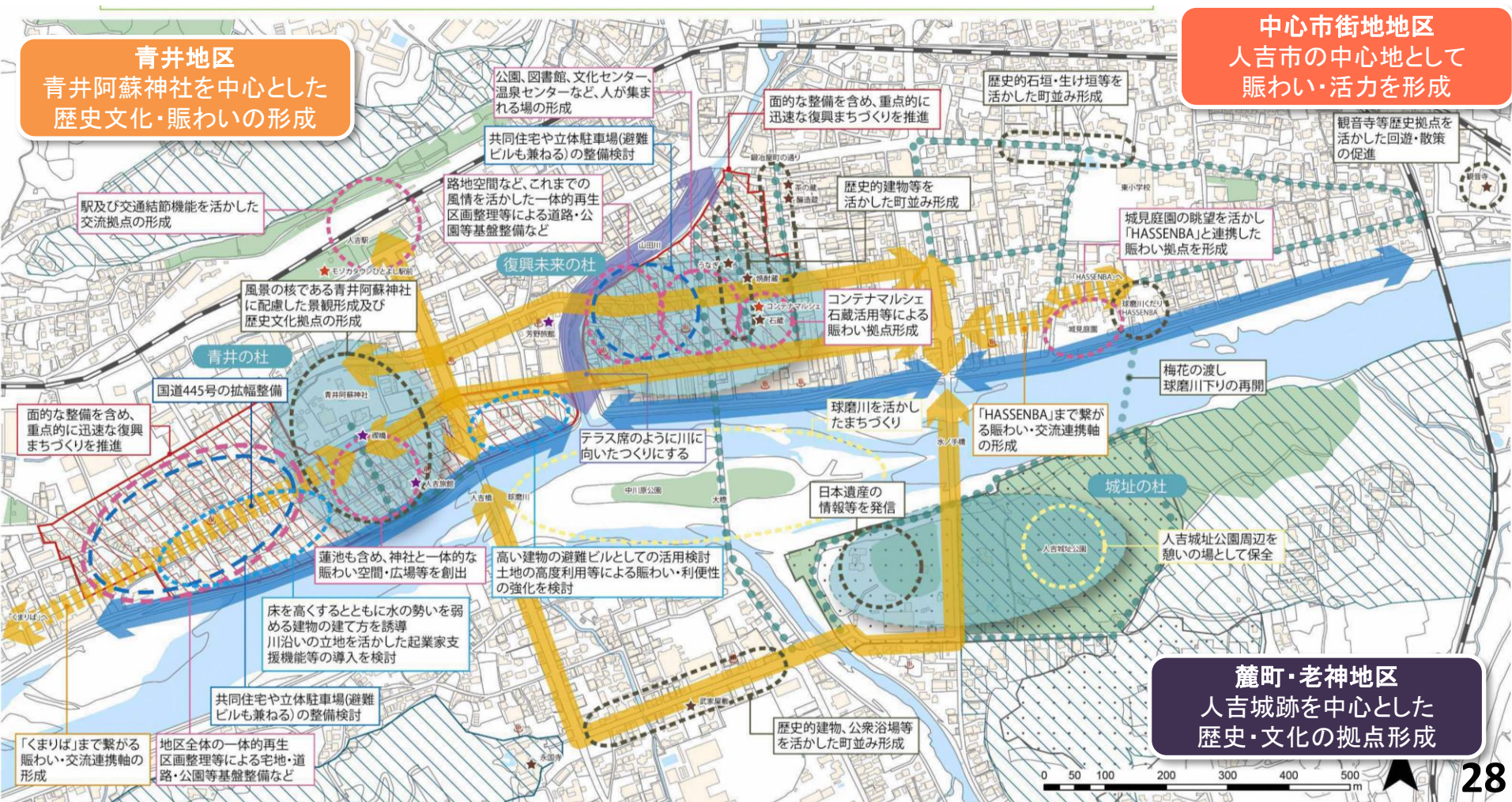
球磨村



復興まちづくり計画に盛り込まれた新たな拠点整備イメージ
(相良村)

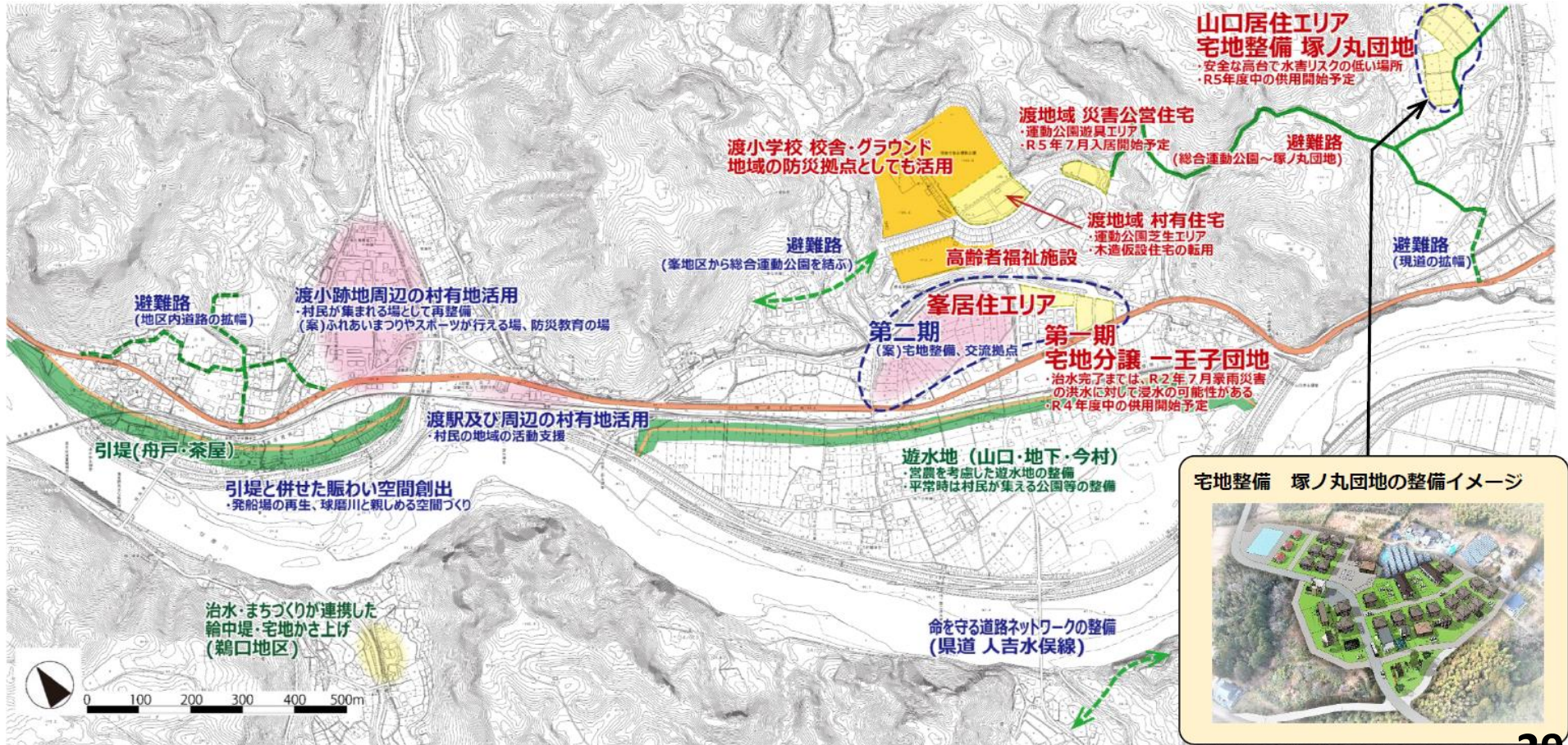
人吉市中心市街地周辺の新たなまちづくり

- 人吉市では、被害が大きかったエリアを重点地区(8地区)と定め、具体的なまちづくりの方向性を取りまとめた。
- 賑わいや観光面において人吉の顔となる中心市街地周辺については、面的整備を含めたまちづくりを進めるため、「被災市街地復興推進地域」を指定(令和3年7月都市計画決定)
- 青井地区については、令和4年3月、**被災市街地復興土地区画整理事業(約5.2ha)の都市計画を決定し、令和4年度から、県施行による土地区画整理事業を推進**



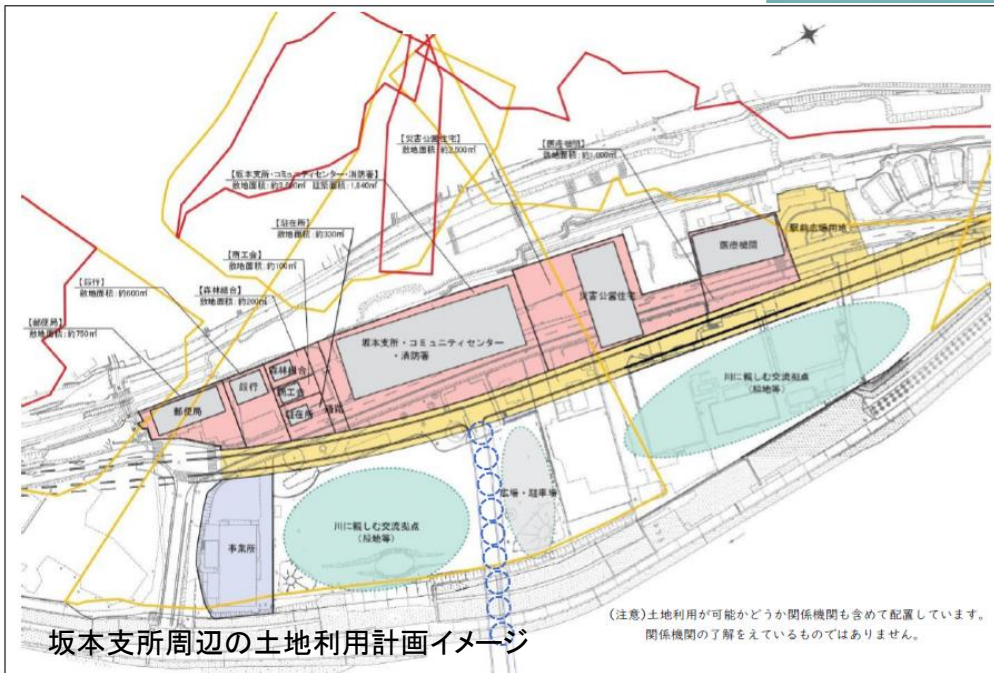
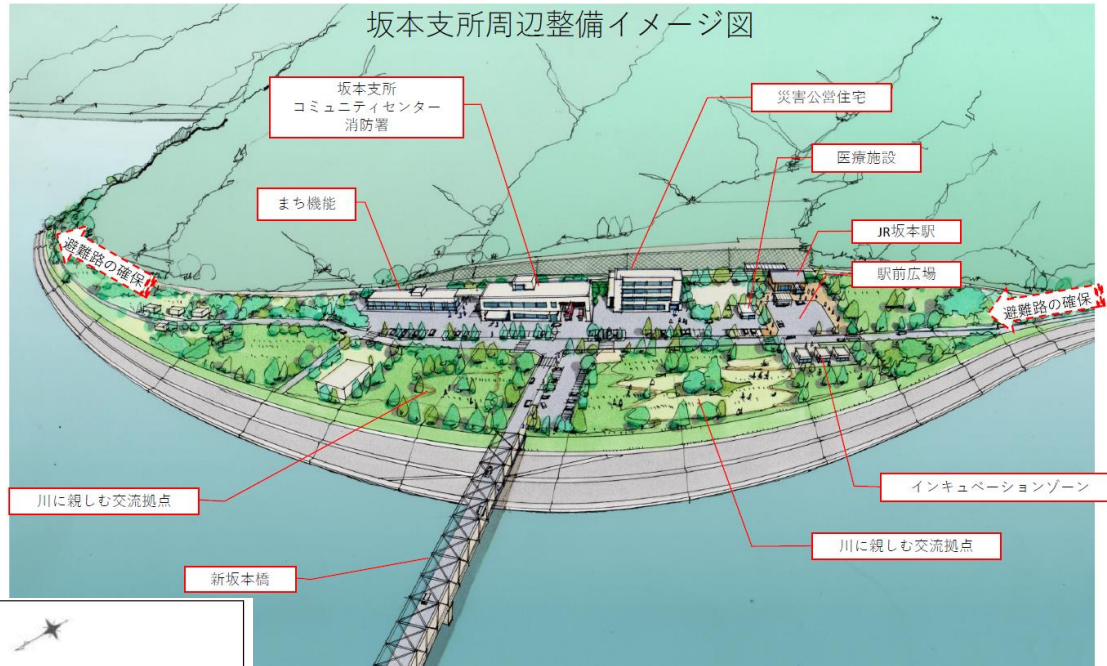
新たな宅地整備など球磨村の集落再生の取組み

- 渡地区において、宅地整備や避難路整備、渡小学校や千寿園の再建、災害公営住宅等を高台に集約する方針を決定。
- 宅地造成等の県の受託施行について令和4年3月に県・村の協定を締結し、令和4年度から、県による球磨村渡地域の宅地造成等の推進。



八代市坂本支所の再建及び支所周辺まちづくりの推進

- 八代市では、関係者や学識者懇談会の意見を踏まえ、**令和4年1月に坂本支所の再建位置を決定**
- 今後、詳細な土地利用計画や支所等の建物の配置計画を策定していく予定
- また、宅地かさ上げや県道中津道八代線の整備、かわまちづくりと連動したまちづくりを推進



坂本町まちづくり計画説明会(八代市)

被災者の見守りや「地域の縁がわ」などICTを活用した新たな取り組み

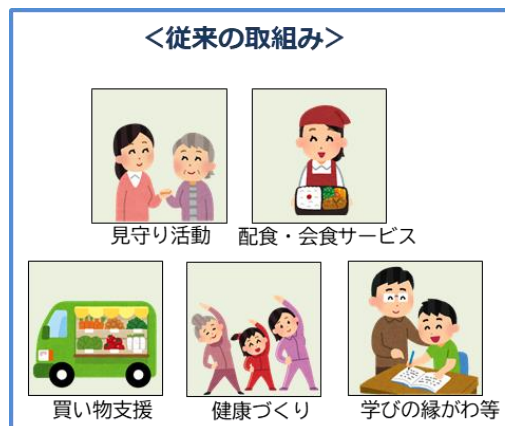
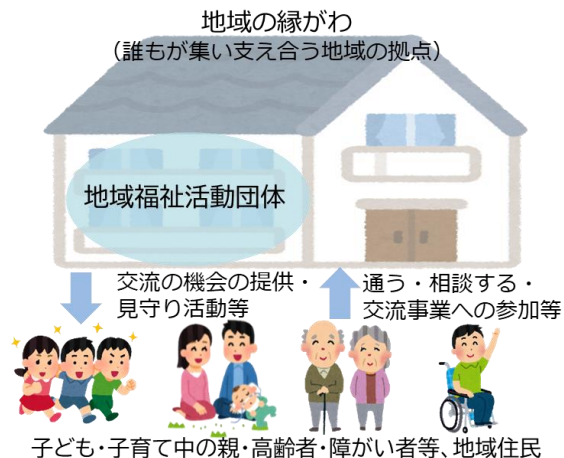
ICTを活用した被災者の見守り

○令和4年度からICTを活用した見守りを開始し、被災者の孤独・孤立を防止



「地域の縁がわ」を拠点にICTや防災活動を推進

○令和4年度から補助金嵩上げを行い、従来の見守り等の活動に加えICTや防災活動等に取り組む団体を支援



医療アクセス困難地域での「オンライン診療」導入に向けた動き

○八代市では、坂本町において、移動診療車や遠隔医療機器を整備し、看護師等が乗車し定期的に地域を巡回することで、医師によるオンライン診療が受けられる“モバイルクリニック”の導入を目指し、令和4年度から関係者での協議など、事業企画をスタートされる予定。今後、八代市の意向も踏まえ、連携して取り組む予定。

(参考) デジタル医療MaaS推進事業(モバイルクリニック)の概要 ※八代市作成資料

オンライン診療・服薬指導、医療MaaS

課題

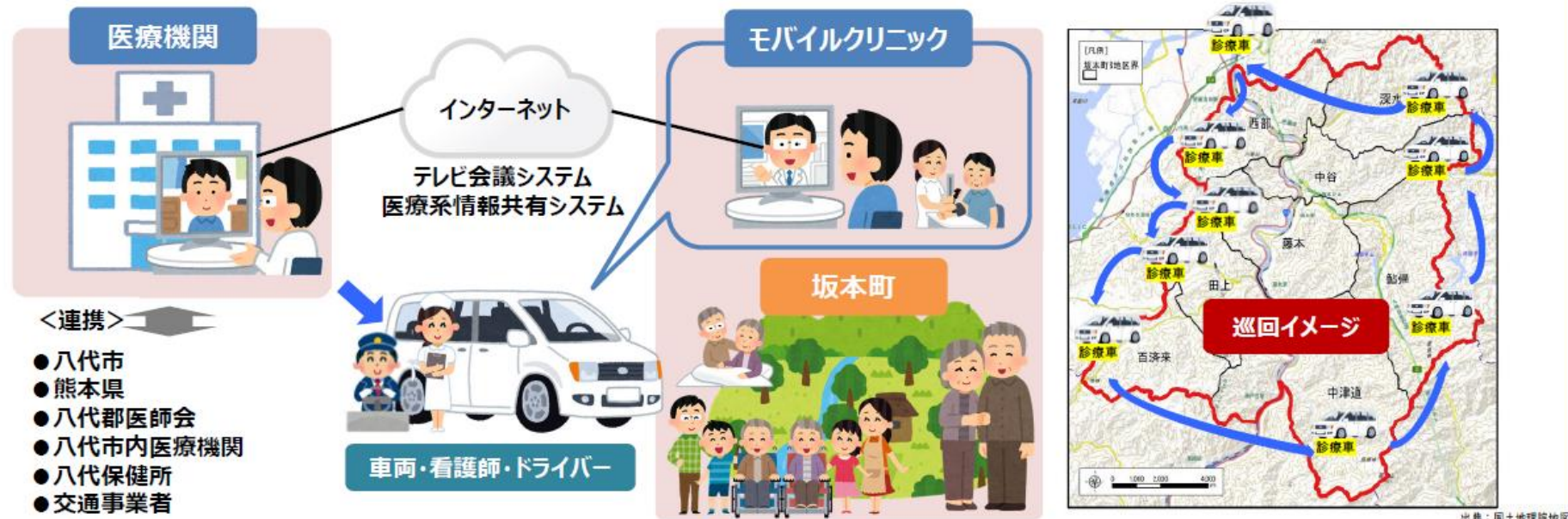
- 令和2年7月豪雨災害により坂本町は2つの医療機関が被災し、現在は無医地区の状況
- 巡回診療や往診が行われているものの、地域からは早期に医療機関の設置を求める声大きい
- 医療提供体制の確保に向けて医療関係機関と協議中ではあるが、今しばらくの時間が必要

対応策

- 坂本支所周辺への医療提供体制確立までの間、代替の医療サービスを提供する必要
- 患者の移動負担軽減や往診回数の縮減による医師の負担の軽減を考慮した医療を提供

【事業概要及びイメージ図】

- 遠隔医療機器を装備した移動診療車に看護師が乗車し、テレビ会議システムにより市街地にいる医師が患者を診察。
- 配車予約システムにより、医師がオンライン診療のスケジュールに応じ、効率的なルートで地域や患者宅を巡回。



なりわい(生業)・
産業の再生と創出

生業の再建と新たな産業の創出

<令和3年度までの取組みと成果>

【事業再建支援】

・なりわい再建支援補助金による復旧支援 (R4.3.24)

補助金申請
526件

補助金の交付決定
500件

復旧完了
325件

※ 26件の差は、申請取下げ（保険金による復旧等のため）によるもの



HASSENBAにおける復旧

【新たな産業の創出】

・サテライトオフィスの設置等による産業の創出 **8**件(R4.3.24時点)

・立地促進補助金「球磨川流域復興枠」の立地協定 **6**件

(R4.3.24時点)



<令和4年度の取組み>

①なりわい再建支援補助金による復旧支援

②サテライトオフィスの設置等による産業の創出

③立地促進補助金「球磨川流域復興枠」による企業誘致

※今後、全庁的に他業種への支援策も検討。

④県南被災地域の食品加工産業への支援事業

新

球磨焼酎をはじめとする醸造食品における蔵付き微生物の
分離収集・解析・保管に関する支援 (R3~R5年度)

- ・蔵付き微生物の分離収集と微生物同定試験
- ・微生物叢の解析
- ・スクリーニングによる優良株の選択
- ・優良株の詳細な同定試験



⑤事業復活おうえん給付金（豪雨型）

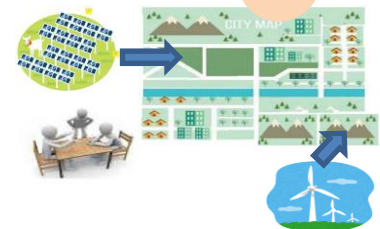
新

なりわい再建支援補助金又は持続化補助金(豪雨型)
を活用し、かつ売上減少が▲10%~▲30%の事業者
に対する給付事業を創設。 ※他地域は▲30%~が対象

⑥「地域共生型再エネ施設」の導入推進事業

新

環境・景観・防災に配慮した「地
域と共生する再エネ施設」の導
入推進に向けて、陸上風力及び
地上設置型太陽光発電ゾーニン
グ事業を行う。



農林水産基盤の復旧

＜令和3年度までの取組みと成果＞

農林水産基盤の復旧を着実に推進

- ・営農用機械・施設の復旧について、3,686件を支援し、資材調達待ち等の5件を除き**完了**。
- ・林水産施設の復旧7件が**完了見込**。
- ・農林業者による応急復旧・自力復旧627件※が**完了見込**。※実績は集計中
- ・県及び市町村が実施する農地・農業用施設及び林道の復旧工事261箇所完了、397箇所実施中。(2月末時点)

＜令和4年度の取組み＞

本格的な復旧工事を着実に推進

- ・農地・農業用施設や林道の本格的な復旧工事については、引き続き全力で取り組む。
- ・災害復旧の進度等に応じ市町村へ職員を派遣するなど被災自治体に寄り添った支援を継続。

灌水用井戸の復旧(あさぎり町)



林業施設の復旧(球磨村森林組合)



ハウスも復旧

農地の本格的な復旧工事(相良村)



林道の本格的な復旧工事(多良木町)



球磨川流域CO2削減住宅補助金の活用状況

- 球磨川流域地域における一定基準以上である断熱仕様の住宅リフォーム等への補助を実施
- 令和3年度の活用状況：345件
(新築338件・リフォーム7件)



高断熱住宅※の普及による
ゼロカーボンの推進

両立

球磨川流域地域の
復旧・復興

※冷暖房エネルギー消費量の約35%削減

補助金の概要

- 1 補助対象
球磨川流域地域(13市町村)における高性能建材(窓・ガラス、断熱材)を用いた住宅の新築・リフォーム
- 2 補助率・額
対象建材費の1/3 上限30万円

交付申請件数

(R4.3月1日現在)

市町村	件数	市町村	件数
八代市	151	水上村	2
人吉市	87	相良村	6
芦北町	24	五木村	1
津奈木町	7	山江村	3
錦町	21	球磨村	5
多良木町	14	あさぎり町	18
湯前町	6	合計	345

地域資源を生かした再生可能エネルギーの導入推進

球磨川流域における新規小水力発電所の開発可能性調査

【令和3年度の実施】

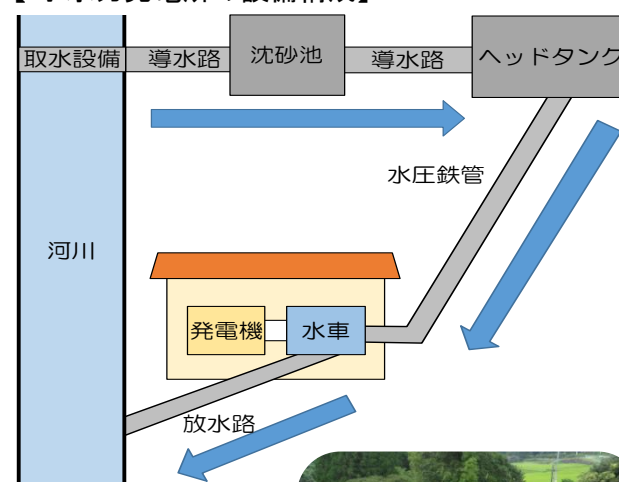
- 机上調査及び過去に調査した地点の再評価により、**候補地点として12か所を抽出**
- 緑の流域治水アドバイザー主催の勉強会に参加し、**取水設備としての砂防堰堤の活用を検討**

【令和4年度の実施】

- 机上調査を継続し、砂防堰堤の活用が見込める候補地点を追加抽出
- 候補地点について、現地調査及び概略検討を行い、関係部局や有識者の意見を踏まえ、有望地点を絞り込む

- 有望地点について、令和5・6年度に流量調査・概略設計を行い、更なる絞り込みにより、令和6年度の計画地点選定を見込む

【小水力発電所の設備構成】



【砂防堰堤の活用例】
菊鹿発電所取水設備
(上内田川第二砂防堰堤から取水)



新たな再生可能エネルギーの研究

局内プロジェクトチームにおいて、地域分散型エネルギーシステム(※)の構築について情報収集及び課題整理を実施

※地域分散型エネルギーシステム…再生可能エネルギー発電による電力を地域の防災拠点等へ供給するなど、比較的小規模な地域でのエネルギー供給を想定

災害に強い
社会インフラ整備と
安心して学べる拠点づくり

国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興

<令和3年度までの取組みと成果>

◆集落アクセス

- ・令和3年7月末までに166集落へのアクセス道路の応急復旧工事完了

◆国道219号および対岸道路(国の直轄代行)

- ・応急復旧工事中
- ・国道219号令和3年7月末から大野大橋から人吉方面の一般車両通行可能

◆橋梁(国の直轄代行)

- ・流失した10橋のうち、鎌瀬橋など4橋の仮橋が令和3年5月末までに完成
- ・令和3年12月に、相良橋を除く9橋の橋梁の復旧位置及び橋梁形式が決定

<令和4年度取組み>

◆集落アクセス

- ・本復旧工事の推進

◆国道219号および対岸道路(国の直轄代行)

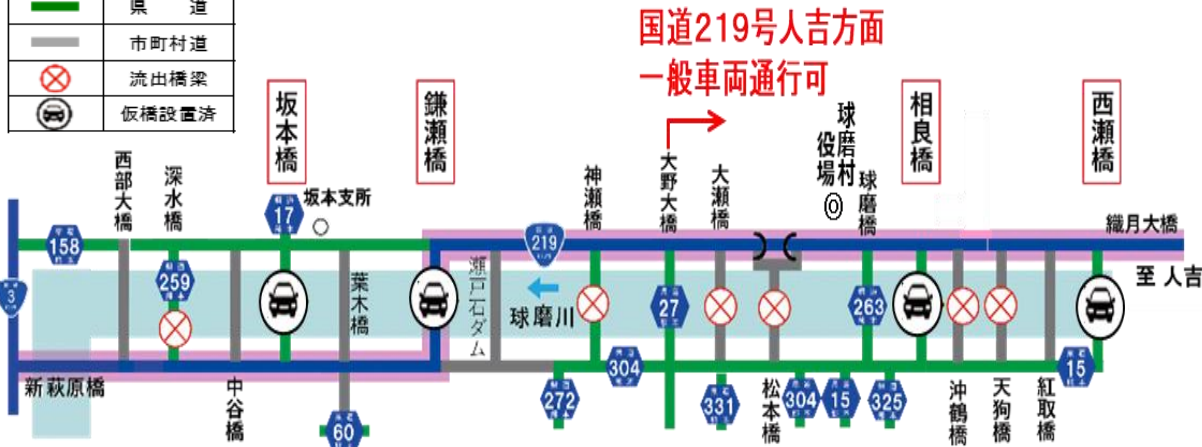
- ・国、県、関係自治体による連携
- ・本復旧工事の推進

◆橋梁(国の直轄代行)

- ・西瀬橋 : 本復旧工事着手、工事推進
- ・その他9橋: 国、県、関係自治体による連携、早期復旧に向けた取組み推進

凡例

	国道219号
	国 道
	県 道
	市町村道
	流出橋梁
	仮橋設置済



鎌瀬橋復旧イメージ

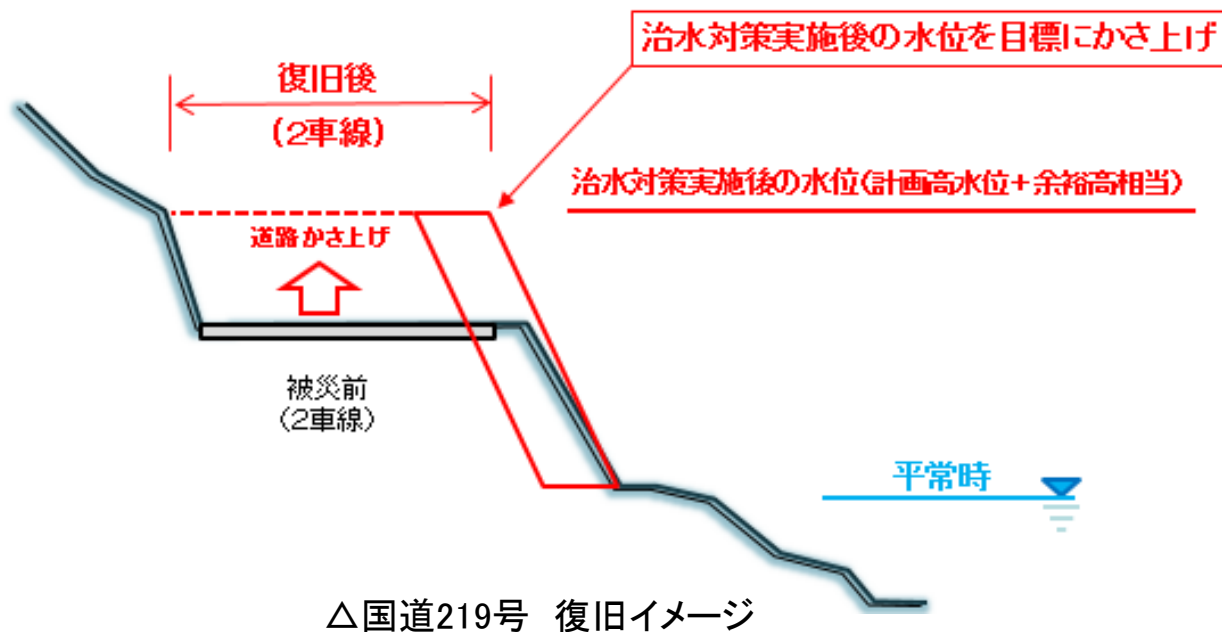


出典: 第4回球磨川橋梁技術検討会資料

国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興

国道219号等の道路復旧方針

- 国道219号は、災害時に強靱で信頼性の高い避難路として機能するよう治水対策実施後の水位(計画高水位+余裕高相当)を目標にかさ上げを実施



- 対岸道路(県道等)は、「迅速かつ的確な避難」と「被害の最小化」を図る取り組みの一環として、集落の孤立を回避するかさ上げを実施
- 幅員については、原則として、現行基準(幅員5m以上)を満足する幅員で復旧
- 今後、各自治体が定める避難計画や、まちづくり計画等を踏まえ、各自治体と調整

鉄道の復旧

＜令和3年度までの取組みと成果＞

《くま川鉄道》

- ◆ 令和3年11月28日に肥後西村駅から湯前駅まで部分運行開始
- ◆ 復旧工事の詳細設計完了予定



部分運行再開記念出発式



一武駅から肥後西村駅へ向かう田園シンフォニー

《JR肥薩線》

- ◆ 「肥薩線復旧を願うアピール集会」開催(3月20日 人吉スポーツパレス)



- ◆ 「JR肥薩線検討会議」設置(3月22日第1回開催)
構成: 熊本県・国土交通省・九州地方整備局・九州運輸局・JR九州
目的: 河川や道路などの公共事業との連携の可能性も含めた復旧方法及び復旧後の肥薩線の在り方等について検討

＜令和4年度の取組み＞

《くま川鉄道》

- ◆ 全線運行再開時期確定
- ◆ 「球磨川第4橋梁」復旧工事に着手
- ◆ くま川鉄道(株)・沿線市町村と連携し、「くま川鉄道再生協議会」において復旧に向けた協議を実施
- ◆ 国、県、市町村による財政支援の実施

《JR肥薩線》

- ◆ 「JR肥薩線検討会議」において引き続き復旧方法等を検討



第1回 JR肥薩線検討会議

- ◆ 県と関係市町村で復旧に向けた方策の検討や持続可能な運行に向けた利用促進等の協議を行う協議体を設置

- ◆ ①JR肥薩線、②くま川鉄道の運休により通学困難となった生徒への通学支援(①R2.9～、②R2.7～)。R4年度も支援を継続。

児童生徒の心のケアとICT教育の推進①

○ 児童生徒の心のケア

<令和3年度の取組み>

<令和4年度の取組み>

熊本豪雨スクールカウンセラー活用事業

心のケアが必要な児童生徒数

R 2

(R2. 10調査)

222人

(八代、芦北、球磨地域の支援対象校14校)

R 3

(R3. 6調査)

72人



S C 活動時間 (拡充)

8 4 0 時間

八 代 1 0 5 時間

芦 北 1 0 5 時間

球 磨 6 3 0 時間

○3教育事務所に4人を配置。
(R3.4~)



S C 活動時間

5 2 5 時間

八代・芦北

1 0 5 時間

球 磨 4 2 0 時間

○3教育事務所に3人を配置。
(R4.4~)

※令和2年7月豪雨に係る児童生徒の心のケアに関する調査の人数

重点支援対象校 1 4 校 (小中学校) に対して教育事務所配置 S C を派遣

○ ICT教育の推進

<令和3年度の取組み>

<令和4年度の取組み>

- 世界的ICT企業(グーグル、マイクロソフト、インテル)と連携のうえ、ICT教育の方向性を整理
- 生徒や教職員向けの研修会を実施



「Google for Education パートナー自治体プログラム」に参画 (R3.8)



インテルと連携した教員向け研修 (R4.1)

熊本県

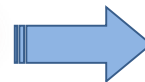
ICT企業等

連携

球磨川流域
小・中・高校

方向性に基づいた取組み

「球磨川流域の
ICT教育の方向性」



球磨川流域から
先進的な
ICT教育の実践

- ICT企業等(インテル、グーグル等)と連携し、球磨川流域小・中・高校における特色ある取組等を支援

児童生徒の心のケアとICT教育の推進②

○くまもとCORE/ハイスクールネットワーク事業

<令和3年度の取組み>



○遠隔授業のための機器を購入し、遠隔授業の試行を実施 (R3.7~)

<令和4年度の取組み>

遠隔授業

① 「教科・科目充実型」の授業

配信側	受信側
地理: 第一高校	牛深高校
数学: 第一高校	小国高校
商業: <u>球磨中央高校</u>	小国高校
英語: 教育センター	<u>球磨中央高校</u>

② 地域課題解決のための探究活動

○熊本、阿蘇、天草、人吉球磨を一体化した熊本スーパー・ハイスクール(KSH)とのリンクによる探究活動の充実

○マイスター・ハイスクール事業

<令和3年度の取組み>

第4次産業革命を担う職業人育成

CEOによる
マネジメント



専門学校 = 指定校: 八代工業高校



産業界 =
一社) 熊本県静観サービス産業協会

○企業の技術者による最先端のデジタル技術に触れる授業の実施(2学期~)

<令和4年度の取組み>

- 企業技術者による最先端のデジタル機器を活用する授業実施 (年間約400時間)
- 企業の施設・設備を活用した企業実習の実施 (年2回)



○産学官一体となった産業人材育成のエコシステムの構築

○最先端産業教育設備の導入

○八代工業高校、球磨工業高校、八代東高校、球磨中央高校、八代農業高校、南稜高校に導入工業関係高校10校をはじめ、農業関係高校7校、商業関係高校3校を整備



マシニングセンタ

数値制御により金属等の切削や穴あけなどの加工するための装置



3Dプリンタ

3Dモデルを造形するための装置



産業用ロボット

プログラミングを含めたメカトロニクス技術を学ぶ上で必要な装置

○熊本スーパー・ハイスクール(KSH)構想

○すべての県立高校をその特色により区分し、「熊本スーパーハイスクール(KSH)」として位置付け

○R3年度新たな県指定開始

【県指定の種類(区分)】

- ①イノベーションハイスクール、②プロフェッショナルハイスクール、③クワイエットハイスクール、④エンパワーメントハイスクール
・八代清流、人吉 ・八代農業、八代東、南稜、芦北 ・球磨中央

**地域の魅力の
向上と誇りの回復**

観光地人吉・球磨の復活①

令和3年度までの取組み

観光施設等の再開支援

○人吉温泉



復旧率 (R4.3月末)
84.8%
(5軒が復旧中)

※主要宿泊施設37軒のうち26軒が被災

○球磨川くだり・ラフティング



[球磨川くだり]
令和4年春の再開予定
[ラフティング]
一部区間で営業再開

※球磨川くだりは梅花の渡しのみ運航中

○球泉洞



令和4年4月の再開予定
(食事処のみ営業中)

○文化財



被災した国・県指定等文化財の約5割が復旧
(R4.3月末時点)

※国・県指定等文化財の43件が被災

令和4年度取組み

◆継続的な被災事業者支援

復旧道半ばである宿泊施設や観光施設等の受入環境整備などを継続的に支援

◆観光地域づくりの更なる推進

観光復興戦略の3つの柱に沿った取組みを推進

- 1 豊かな自然を生かした球磨川ゆかりの新たなツーリズムの創造
- 2 まち並みや地域の資源を生かした宿泊を促す観光コンテンツの充実
- 3 伝統や文化とIoTを融合させるスマート観光の推進

◆旅行需要の回復支援

旅行助成に加え、被災地への送客支援により、旅行需要回復を強力に支援



旅行需要回復を強力に支援

観光地域づくりの推進と旅行需要の喚起

○『人吉球磨豪雨被災地観光復興戦略』の策定 (R3.3.31)

観光復興に向け地域と方向性を共有し、戦略に沿った取組みを実施



▲ 新たな球磨川アクティビティの開発



▲ まちあかりの開催



▲ 「夏目友人帳」と連携した地域の魅力発信動画の公開

○「くまもと再発見の旅」等に係る被災地支援 (R3.10~)

豪雨被災地域を対象に休日の上乗せ助成や、バス等の利用に対する助成

◆球磨焼酎の“トップ・オブ・ザ・ワールド戦略”(R3~)

R3のマーケティング調査結果等を踏まえ、更なる魅力発信・販路拡大を戦略的に実施



令和5年度末

- 球磨焼酎の世界進出による認知度向上・販路拡大
- 被災した文化財の復旧完了
- 人吉温泉、球磨川くだり、ラフティング、球泉洞の再開
- 宿泊者数が被災前の水準を上回る

観光地人吉・球磨の復活②

◆ 観光地域づくりの更なる推進

◎球磨川ブランドの創造を核とした持続可能(SDGs)かつ地元経済に資する観光地域づくりを推進

1 豊かな自然を生かした球磨川ゆかりの新たなツーリズムの創造

- スポーツとの融合
 - ・SUP等の新たな球磨川アクティビティの導入
 - ・サイクルツーリズムの推進
- 恵まれた泉質(温泉)・豊富な食の活用
 - ・ウェルネスツーリズムの推進



▲ 球磨川でのSUP



▲ 川辺でのテントサウナ

2 まち並みや地域の資源を生かした宿泊を促す観光コンテンツの充実

- 宿泊や消費を促す上質な“まち灯り”の整備
- マンガ・アニメ等コンテンツの活用
 - ・「夏目友人帳」と連携した周遊企画等の実施(Kumaラボも活用)



▲ まちあかりの整備



▲ 「夏目友人帳」と連携したスタンプラリー

3 伝統や文化とIoTを融合させるスマート観光の推進

- デジタルマップを活用したIoTおもてなし
 - ・観光、サイクリング、防災情報を搭載
- ワークেশョンの推進



▲ デジタルマップ



▲ コワーキングスペースの活用

旅行者の滞在時間・観光消費額
来訪機会の少ない若年層の集客力 **UP**

通年型、滞在型観光への転換加速度
アニメファン等の新たな層の集客力 **UP**

観光客の利便性・安全性 **UP**

◆ 旅行需要の回復支援

◎旅行助成事業に加え、被災地への送客支援事業の実施により、旅行需要の回復を強力に支援

①くまもと再発見の旅

宿泊・日帰り旅行の助成
(1人当たり最大5千円)及び地域限定
クーポン券(1人当たり2千円)を配布



GoToトラベル(国)

※未定

②GoToトラベル(くまもと版)

県内宿泊・日帰り旅行の割引助成
及び地域限定クーポン券(1人当たり
最大3千円)を配布

③豪雨被災地送客促進事業

観光バス(最大5万円)及び
レンタカー(最大3千円)の利用を支援



観光地人吉・球磨の復活③

◆ 球磨焼酎の“トップ・オブ・ザ・ワールド戦略”

＜令和3年度までの取組みと成果＞

【大学・企業との連携による情報発信や販路拡大支援】

- ①若者をターゲットとした情報発信
- ②時代のニーズをとらえた商品開発支援
- ③異業種の民間企業が連携した販路拡大の取組み



①熊大によるカクテルレシピ開発等の情報発信
 ②蔵元と米国企業の連携によるアメリカ輸出
 ③卸会社と海運会社の連携による中国輸出

【イベント出展等による認知度向上・消費拡大】

○県外事務所と連携したイベント実施等による情報発信



(熊本) 飲食店における球磨焼酎フェア



(大阪) 吉本興業と連携したオンラインキャンペーン
 (東京) 商業施設等での球磨焼酎フェア

【国内外コンペティションにおける受賞状況】



＜令和4年度の取組み＞

球磨焼酎の魅力発信

球磨焼酎の**歴史**や**文化**、蔵元の**こだわり**等に焦点をあてた**魅力の発掘**及び**情報発信**



球磨焼酎**交流会**や酒蔵体験プラン造成等の**酒蔵ツーリズム**の推進等による**需要喚起**



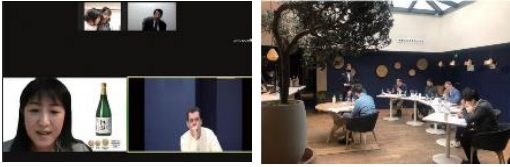
歴史ある球磨焼酎の魅力を
 知る人が増え、多くの人
 が球磨焼酎を飲みたくなる。

球磨焼酎の販路拡大

球磨焼酎の**消費拡大**のための百貨店や飲食店等と連携した**球磨焼酎フェア**の開催



球磨焼酎の**販路拡大**のための**商談会**や**展示会**、**コンペティション**等への出展支援



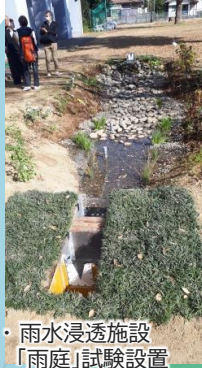
ブランド力が高まった球磨
 焼酎を国内外の多くのお店
 が取扱うようになる。

球磨川流域大学構想

球磨川流域を1つのキャンパスと位置づけ、球磨川流域の魅力ある自然や恵みを生かした様々な「学び」「研究」「交流」の場を創出することで、若者が“残り”“集まる”魅力あふれる地域の実現を目指す。

最先端治水研究

◆熊本県立大学と連携した「緑の流域治水」の最先端研究の推進



・雨水浸透施設
「雨庭」試験設置



・キックオフミーティング開催(R3.11)
・関係機関と連携し球磨川流域の拠点(地域ラボ)開設

◆南稜高校での雨水浸透



・実習水田における雨水浸透実験のための試掘
・今後、地下浸透樹を設置し、地下浸透効果を検証

◆東京大学先端科学技術研究センターとの連携

気象データについて

- ・気象データの歴史(天気予報の歴史とともに)
- ・気象データはどのように作成されている?
- ・気象データの種類と利活用の留意点

限 健一
東京大学先端科学技術研究センター
シニア プログラム アドバイザー ClimCORE

ClimCORE
「地域気象データと先端学術による戦略的共生共創拠点」
過去を語り、今を理解し、未来を共に創る

2014年4月 福岡管区気象台長在職時に、福岡知事とも面談
2019年3月 気象研究所長を最後に東京大学を退職

◆東京大学先端科学技術研究センターによる気象勉強会を開始(R4.1~)

地域課題の解決

◆JICAと連携した地域課題マッチングプラットフォーム「ひごらぼ」始動



・キックオフイベント開催(R3.12)
・今後、企業等からの新たな創作的提案とのマッチングにより地域課題を解消

◆地域課題解決を図る「Kumaラボ」



・新たなリバーアクティビティ実施に向けた実証実験(観光ラボ)

◆熊本大学と連携した電動スクールバス実証事業



・熊本大学と県、球磨村、企業等が連携し、球磨村で電動スクールバスを運行(R4.2~)
・中山間地域での実用性やCO2削減効果、非常用電源としての活用可能性等を検証

◆大学コンソーシアム熊本による政策アイデアコンテスト



・被災地域の課題解決をテーマの一つとして開催(R3.11)
・R4年度も引き続き開催予定
・エントリー学生がくまもと復旧・復興有識者会議を傍聴

球磨川流域大学構想

“学び・交流”の場の創出

◆人吉市の観光復興に関する演習 (尚綱大学)



・学生がフィールドワーク等を通して研究した観光復興案を人吉市長に提案

◆球磨焼酎の販売促進に関する演習 (熊本大学)



- アプリ「くまのむ」(熊本県立大学)
- ・ イベント開催や球磨焼酎を使用したカクテルレシピを開発
 - ・ 開発したレシピを熊本県立大学に提供し、レシピ動画を視聴できるアプリを開発

◆被災地域支援プロジェクト (熊本県立大学)



- ・ 電動キックボードを活用した観光振興、復興・再生期の地域づくり、バイオマス発電システムの提案等14事業を実施

◆バーチャルキャンパス (熊本県立大学)



- ・ 球磨川流域圏の文化、歴史、環境をテーマにオンライン公開講座を開講
- ・ R4年度は講座数を大幅に増やし、本格運用開始
- ・ 「危機感共有と命を守る災害報道連携会議」のアドバイザーとも連携予定

◆九州自然歩道ルート開発



- ・ 県が熊本大学・南桜高校と連携し、新たなルートや誘客方法を検討

◆ひとよしくま熱中小学校



- ・ 全国で活躍する著名な経営者等が講師として地域課題等を議論する「ひとよしくま熱中小学校」第1期が開校
- ・ 球磨川流域の地域づくり団体や経営者を中心に、学生や自治体職員など様々な方が受講

◆高校生商品開発



- ・ 球磨中央高校や熊本商業高校等が特産物を活用した商品を開発

復旧・復興プランの
実現に向けて

令和2年7月豪雨に係る職員確保状況(令和4年度分)

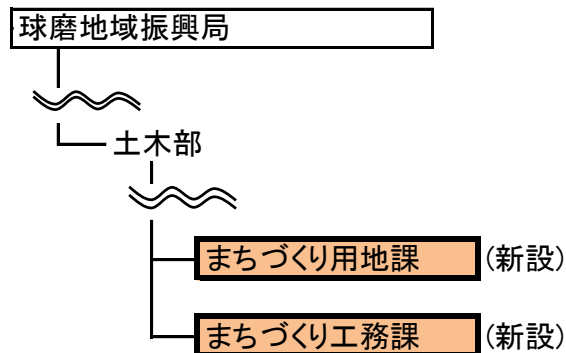
- 被災7市町村から計67人の派遣要望あり。
- これに対して、**県内外の自治体から計45人**の中長期(最短1カ月～最長1年程度。以降は更新。)の**職員派遣が決定**し、4月1日から受入れ(前年度からの継続派遣を含む)。
- これに加え、**任期付職員等13人も業務に従事予定**。
- 未充足の9人分については、引き続き、全国の自治体に対し職員派遣を要請するとともに、被災市町村における任期付職員の採用や民間委託等による対応を促していく。
- また、**球磨地域振興局土木部の組織を拡充**し、人吉市及び球磨村の復興まちづくりを支援していく。

令和4年3月現在 (単位:人)

市町村	要望数	対応			備考
		職員派遣	任期付職員採用等	合計	
八代市	8	4	3	7	
人吉市	23	16	7	23	別途、県職員3人派遣
小国町	2	2	0	2	
芦北町	9	8	1	9	
五木村	2	0	1	1	
山江村	3	0	0	0	
球磨村	20	15	1	16	別途、県職員3人派遣(副村長除く)
計	67	45	13	58	未充足 9人



・人吉市の青井地区土地区画整理事業及び球磨村の渡地区被災住宅移転促進宅地整備事業を県において実施するため、球磨地域振興局土木部に**専任組織を新設**。



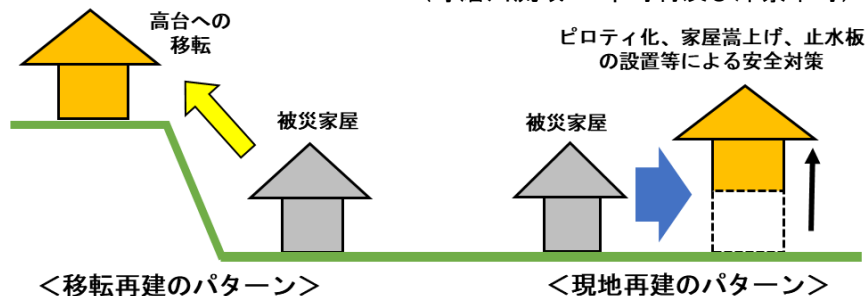
球磨川流域復興基金の活用

- 今回、令和4年度当初予算において、被災者の早期のすまいの再建を実現し、安全安心に住み続けることができる地域づくりを図るため、新たに3つの支援を追加。
- また、既存制度や現在のメニューで対応できない各市町村特有の新たな課題に対して、きめ細かに、かつ迅速に対応できるよう、基金の中に別途2億円を確保しており、適宜、必要な事業メニューを追加する予定。

1 すまいの安全確保支援

球磨川水系流域治水プロジェクトの完了等を見据え、令和2年7月豪雨による災害からの生活の再建並びに市街地及び集落の復興の推進を図るため、災害リスクの低い場所への移転やピロティ化等を行う住民に対し費用を助成する市町村を支援。

- 負担割合 県2/3(県上限額:2百万円) 市町村1/2
- 事業主体 県の復旧・復興プラン対象市町村
(球磨川流域12市町村及び津奈木町)



「相良村浸水区域外移転再建促進事業補助金」交付式の様子



かさ上げイメージ

2 木造仮設住宅利活用等支援

木造応急仮設住宅、集会所及び談話室を、被災者のすまいの再建及び創造的復興に資する施設として利活用する際に必要な工事費等の経費を支援。



- 負担割合
【現地利活用】
・土地購入費
県1/2 市町村1/2

- 【移設利活用】
・設計及び工事監理費(※) 県10/10
・工事費(※) 県10/10
・その他敷地整備費 県1/2 市町村1/2
※創造的復興に資する施設として利活用する場合は1/2

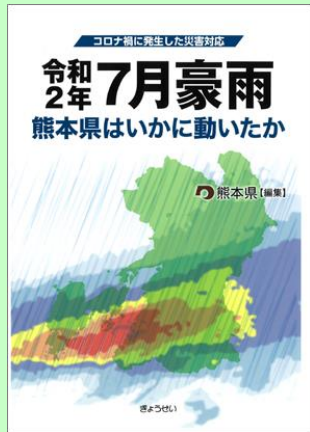
3 応急仮設住宅移転等費用支援

借上型仮設住宅の貸主不同意の場合など自己都合ではない転居費用等の軽減を図るために要する費用を支援。

- 負担割合 県10/10(上限額:100千円)

令和2年7月豪雨の後世への伝承(アーカイブ化)

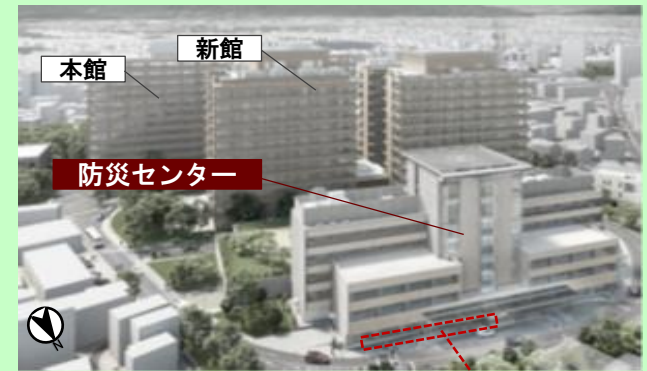
- 県では、「令和2年7月豪雨における災害対応の振り返り」を取りまとめ、公表(書籍化)。
- 「熊本災害デジタルアーカイブ」で、写真、映像等の関連資料を公開。
- 現在整備中の「県防災センター」の1階に設置する震災等ミュージアムでは、これまでの大規模災害の経験、教訓を次世代に繋ぎ、今後に生かしていくため、令和2年7月豪雨災害も含め、本県が経験した自然災害に関する展示を行う(R5.4オープン予定)。
- 市町村においても、リアルハザードマップの設置、豪雨の体験や復興への思いを伝える語り部養成、災害遺構の保存・展示の取組みなどが進められている。



令和2年7月豪雨における災害対応の振り返り(書籍)



熊本災害デジタルアーカイブサイト



防災センターイメージ図



リアルハザードマップ設置(人吉市)



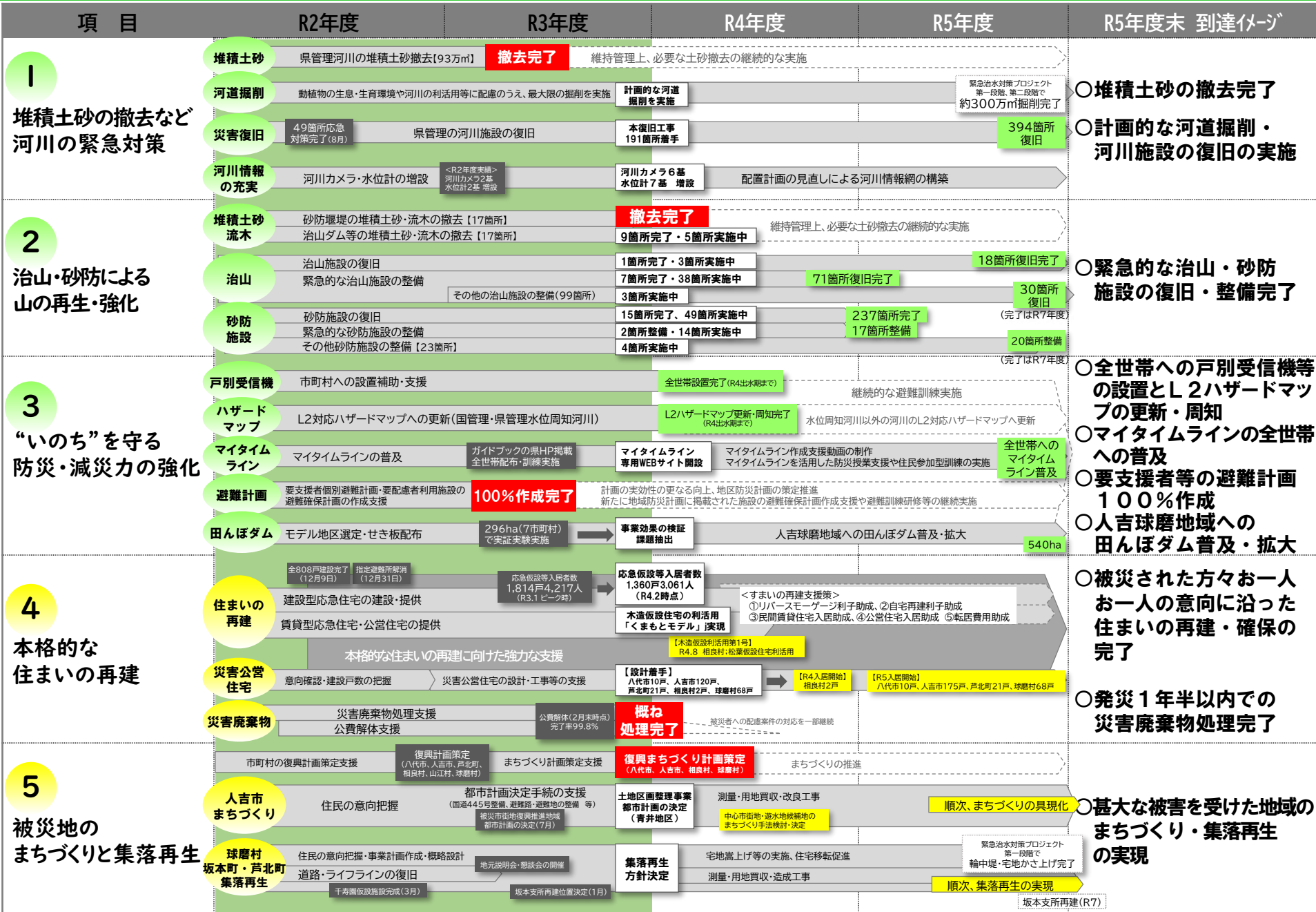
語り部学習会の様子(球磨村)



遺構保存(左:球磨川第一橋梁、八代市)(右:第二球磨川橋梁、球磨村)

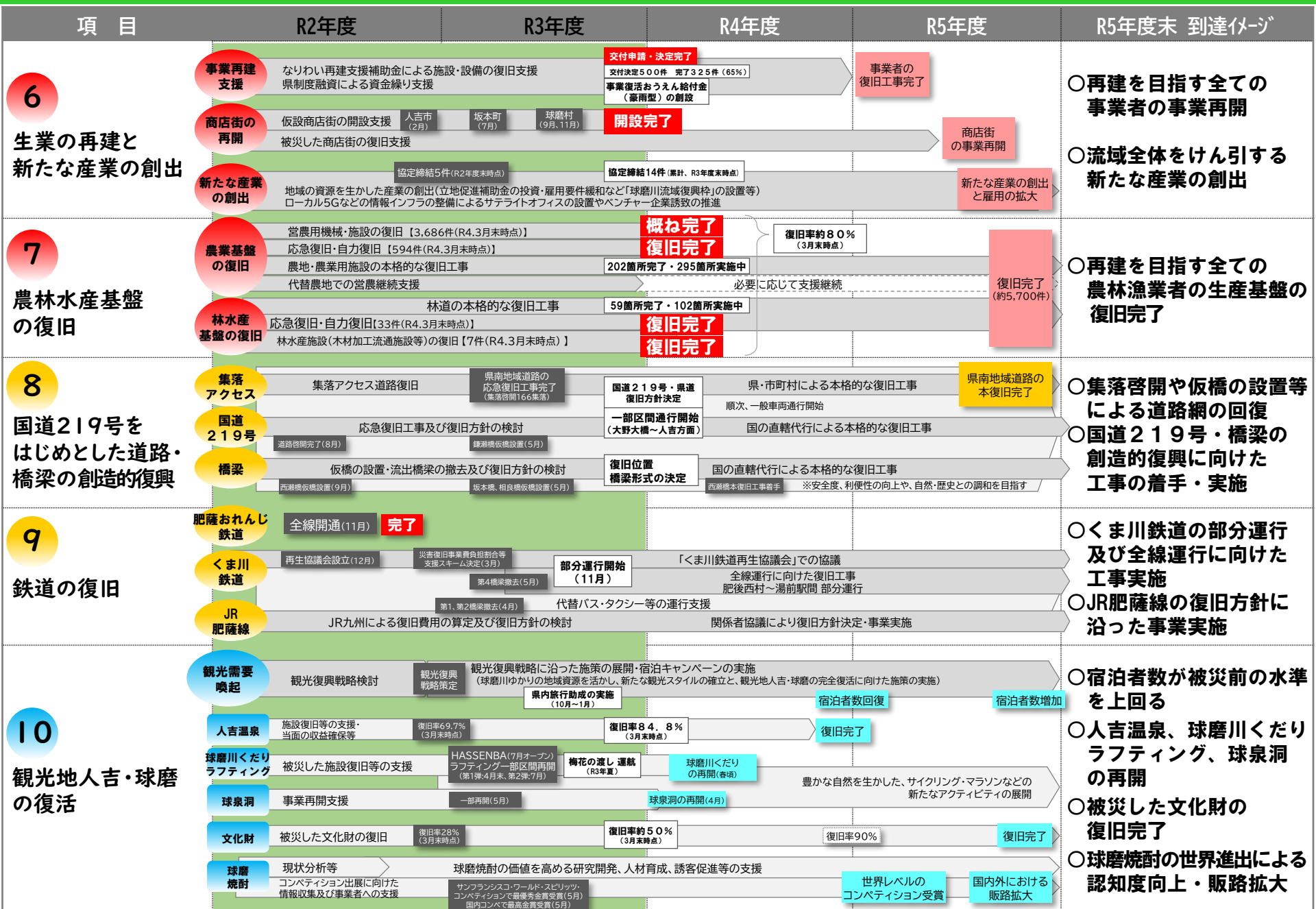


“緑の流域治水”の推進と復旧・復興に向けた重点10項目 資料2 1



※上記の達成率等には、特別な事情により復旧等が困難な場合は含まれません。

“緑の流域治水”の推進と復旧・復興に向けた重点10項目



※上記の達成率等には、特別な事情により復旧等が困難な場合は含まれません。